

信州大学大学史資料センターの 活動評価及び今後の展開について

大学史資料センター検討部会
報告書

学術情報・図書館委員会
大学史資料センター検討部会
2019年11月18日

要 旨

信州大学大学史資料センター（以下「センター」という）は、1949年に新制大学として発足した信州大学（以下、「本学」という）の創立 70 周年を契機として、従来から喫緊の課題であった、本学の歴史に関する史資料の体系的な収集・整理・保存、調査研究、及び公開・展示を担う組織として、2017 年 4 月、附属図書館の下に設置された。

当初計画で、2019 年に「3 年間の活動を総括し、今後の展開と組織の在り方の見直しを検討する」と定めたのを受け、学術情報・図書館委員会の下に本検討部会を設置した。

この報告書は、センターの活動を評価し、今後の展開について提案するものである。

● 2017～2019 年度の活動の評価

2017 年から 2 年間の準備期間を経て、2019 年 6 月の「信州大学創立 70 周年・旧制松本高等学校 100 周年記念事業」で、本学の歴史に関する質の高いコンテンツを制作・披露した。関係部署との連携により、記念事業を成功に導く原動力となったことは、極めて高く評価できる。また、本学を構成する特色ある前身校の歴史や、信州大学誕生に関する企画展示を開催している。これらを制作するためには、大学設置当時の書類を発掘し、保存・活用の途を開いたこと、卒業生・元教職員などの関係者約 140 名から 3,000 点以上の史資料を寄贈していただいたこと等、地道な日常業務による成果が必要不可欠であった。

寄贈者の卒業年度を分析した結果、ライフイベント（身辺整理）のタイミングに依頼があると寄贈する傾向があり、受入を中止した場合はその期間の資料が収集できないことが推測される。このことから、周年事業の直前だけ資料収集活動を行うのではなく、継続的な活動が重要であることが明らかとなった。

更に、センターの特任教授は、学芸員養成課程において主要科目の授業を担当しており、学芸員養成課程実施部会長から教職教育委員長宛に提出された「提案書」において、存続が強く望まれている。また、学生や教職員に対する自校史教育への需要も高い。

● 今後の展開と組織の在り方

上記の実績及び分析結果を踏まえ、本学の歴史に関わる教育・研究・事業を中心的に行う組織として、センターを継続・発展させることを提案する。

事業内容は、従来の「資料の収集・整理・保存、調査研究」「資料の公開・展示」「学芸員養成課程への協力」「地域・自治体との連携」に加え、新たなミッションとして「信州大学 100 年史の編纂」を行う。また、「自校史教育」の更なる充実を図る。

組織の在り方は、他の国立大学の実態調査の結果から、引き続き附属図書館の下に位置付けることが妥当である。ただし、運営の主体として、学術情報・図書館委員会とは別に専門の委員会を立ち上げることが望ましい。

予算については、長期計画に基づく経常経費化の実現が理想ではあるが、当面の間、事業費は次世代戦略経費（部局推進プロジェクト）、人件費は学長裁量人件費の要求を、附属図書館から行うのが現実的である。

目 次

I 2017～2019 年度の活動の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

- I.1 信州大学大学史資料センターの概要
- I.2 活動の報告
 - I.2.1 資料の収集・整理・保存、調査研究
 - I.2.2 資料の公開・展示（企画展示・講座等の実施、デジタルアーカイブ構築）
 - I.2.3 信州大学創立 70 周年・旧制松本高等学校 100 周年記念事業への参画
 - I.2.4 学芸員養成課程への協力
 - I.2.5 地域・自治体との連携
- I.3 活動の評価
 - I.3.1 活動実績について
 - I.3.2 経費等について

2 今後の展開と組織の在り方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

- 2.1 信州大学大学史資料センターの継続・発展に向けた提言
- 2.2 信州大学大学史資料センター中・長期計画
 - 2.2.1 資料の収集・整理・保存、調査研究
 - 2.2.2 資料の公開・展示（企画展示・講座等の実施、デジタルアーカイブ構築）
 - 2.2.3 自校史教育の更なる充実
 - 2.2.4 信州大学 100 年史の編纂
 - 2.2.5 学芸員養成課程への協力
 - 2.2.6 地域・自治体との連携
- 2.3 新たな組織の在り方について

参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

- 1) 信州大学大学史資料センター設置について（第 410 回役員会資料） 18
- 2) 福島正樹.信州大学大学史資料センターの設置とその活動『附属図書館研究』7 号 20
- 3) 第 1 回企画展「信州大学今昔（いまむかし）」リーフレット 33
- 4) 第 2 回企画展「信州大学誕生」チラシ 35
- 5) 信州大学歴史探訪マップ 37
- 6) 『信大 NOW』協力記事各種 45
- 7) 「2020（平成 32）年度以降の学芸員養成課程の存続について（提案書）」 52
- 8) 2017 年度、2018 年度戦略的経費実施報告書、2019 年度戦略的経費実施計画書 58
- 9) 信州大学大学史資料センター 中・長期計画（案） 65
- 10) 国立大学における大学史に関わる組織の実態調査 結果まとめ 66
- 11) 大学史資料センター検討部会 名簿・検討部会開催記録 68

1. 2017 年度～2019 年度の活動の評価

1.1 信州大学大学史資料センターの概要

信州大学大学史資料センター（以下「センター」という）は、2016 年度第 2 回～第 3 回学術情報・図書館委員会の審議を経て、第 410 回役員会（2017 年 2 月 1 日）において設置が承認された。役員会説明資料の設立趣旨には、背景・目的が次のように述べられている【資料 1】 p.18。

- 設立趣旨：

信州大学は、部局ごとに戦前からの異なる長い歴史を有し、戦後の 1949 年に新制大学として統合されてからも、はや 70 周年を迎えようとしている。しかしながら、長い大学史における貴重な資料が、現状では廃棄・煙滅の危機に瀕している。貴重資料の収集・整理・保存をすることが、焦眉の急である。

上記の趣旨に沿って、センターは各部局の同窓会及び校友会等との連携により、信州大学（以下「本学」という）の「歴史資料の体系的収集・整理・保存」及び「電子データによる公開・展示等」を業務として担うこととなった。また、原資料の所蔵・管理については、先行する取組を持つ学部等との役割分担を明確化するため、原則として各キャンパス・部局等で行うこととした。

組織は、附属図書館の下に位置付け、学術情報・図書館委員会が必要な審議を行うこと。体制は、附属図書館長が兼務するセンター長、本学の歴史に関する教育・研究・業務を中心的に行う特任教授、専門的な補助業務を行う技術補佐員で構成することとした。

当初の計画で「3 年間の活動を総括し、今後の展開と組織の在り方の見直しを検討する」ことを定めていたのを受け、2019 年 7 月に学術情報・図書館委員会の下に「大学史資料センター検討部会」が設置された。この報告書は、センターの活動を評価し、今後の展開について提案するものである。

1.2 活動の報告

以下、事項ごとに 3 年間（実際には 2017～2018 年度、2019 年度前半の 2 年半分）の活動実績を報告する。業務の実際については、『附属図書館研究』7 号（2018.1）に掲載された福島特任教授による「信州大学大学史資料センターの設置とその活動」に詳しく述べられているので参照されたい【資料 2】 p.20。

1.2.1 資料の収集・整理・保存、調査研究

- 資料の収集状況：

各学部同窓会等、関係各方面と連携して本学に関する資料の寄贈依頼を行い、資料を収集した。内部部局等との調整により、本学の歴史に関わる公文書の発掘・保存を行った。収集状況は、以下のとおりである（2019 年 10 月末現在）。

- ✓ 寄贈者数：136 名（内訳：卒業生 104 名、教職員 30 名、その他 2 名）
- ✓ 寄贈点数：3,183 点（内容：教科書、ノート、学生証、卒業証書等）

- 整理状況：
 - ✓ 寄贈者単位で受入点数と受入リストの管理、簡単な内容の記録を行っており、一点ずつの目録作成は今後の課題である。
 - ✓ 他に、竹内松次郎氏（信州大学創立事務責任者、初代医学部長）、三村一氏（第4代学長）の関係資料を受贈した（点数未加算）。
- 保管状況：
 - ✓ 寄贈者単位で中性紙箱に収めている。
 - ✓ 当初、福島特任教授の研究室として人文学部から1室（307研究室）、事務室兼収蔵スペースとして経法学部から1室（205研究室）を借用したが、寄贈資料の増加により収蔵スペースが不足したため、2019年より新たに人文学部の1室（202研究室）を借用した。しかしながら、既に使用率は6割以上となっており、スペースの確保が課題となっている。
- 調査研究の状況：
 - ✓ ヒアリング等による調査研究
 - ・ 卒業生、教職員および大学関係者へのヒアリング：2017年：5名、2018年：12名、2019年：2名
 - ・ 調査訪問：2017年：金沢大学、自衛隊松本駐屯地、長野県立歴史館、旧制高等学校記念館、教育学部、工学部、農学部、繊維学部、大学本部、2018年：長野県立歴史館、伊那市創造館、南箕輪村郷土館、旧制高等学校記念館、信濃教育会、各学部同窓会、教育学部、工学部、農学部、繊維学部、2019年：農学部同窓会、教育学部、農学部、長野県立歴史館
 - ・ センターの活動紹介と資料提供の依頼：文理学部同窓会総会（2019年4月19日）、寮歌祭（6月19日）、経済学部同窓会総会（7月20日）、信州大学見本市出展（9月5日）
 - ・ 全国博物館長会議での情報収集（2017年、2018年、2019年）。
 - ✓ 文献等による調査研究
 - ・ 明治期の高等学校設置運動、専門学校設置運動、大学設置運動など高等教育機関設置に関する資料の収集、調査研究
 - ・ 前身校も含めた、主要な事項、人物（学長など）に関する資料の収集、調査研究
 - ・ 卒業生寄贈資料で埋められない時期（創立期から1970年代初め頃まで）に関する各種資料、データの収集、調査研究
 - ・ 信州大学を地域の歴史のなかで歴史的に評価するための調査研究

1.2.2 資料の公開・展示（企画展示・講座等の実施、デジタルアーカイブ構築）

収集した資料を活用し企画展示を主催したほか、関連機関との連携・協力を行っている。

- 主催した企画展示・講座（オリジナルの展示：2回、その他：3回、計：5回開催）
 - ✓ 第1回センター企画展・周年記念事業プレイベント「信州大学今昔（いまむかし）」
 【資料3】p.33
 会期：前期：2018年2月22日～3月19日、後期：4月26日～5月14日、
 会場：中央図書館
 関連企画：
 - ・ ギャラリートーク：7回
 - ・ 知の森昼どきセミナー：5月8日「信州大学誕生」（福島特任教授）、5月11日「松高生の青春日記」（渡邊附属図書館長・センター長）

- ✓ 企画展「信州大学今昔（いまむかし）」（オープンキャンパス）
会期：2018年7月11日～9月30日、会場：中央図書館
- ✓ 企画展「信州大学今昔（いまむかし）」（2019年春）
会期：2019年3月28日～6月26日、会場：中央図書館
- ✓ 山の日 mini 展示「長野県内に点在する各キャンパスに縁のある自然公園のご紹介と自然保護活動への誘い」
会期：2019年8月20日～30日、会場：中央図書館
- ✓ 第2回センター企画展・周年記念事業関連イベント「信州大学誕生：残された文書が語る誕生の舞台裏」【資料4】p.35
会期：前期：2019年10月10日～12月18日、後期：2020年3月18日～5月11日、会場：中央図書館
関連企画：
 - ・ ギャラリートーク：11月27日、ほか、複数回予定
 - ・ 知の森昼どきセミナー：11月13日「松本キャンパスのはじまりー信州大学誕生 その2ー」（福島特任教授）、12月11日「大学史資料センターのあゆみ」（渡邊附属図書館長・センター長）
- 共催・協力した企画展示・イベント（計：6回開催）
 - ✓ 企画展示「校歌としての『信濃の国』」
会期：2018年10月13日～11月11日、会場：中央図書館
主催：教育学部図書館・教育学部附属長野小学校、協力：大学史資料センター
 - ✓ 小谷コレクション展「ヨーロッパ近代登山と日本 書物で繙く登山の歴史①」
会期：2018年12月6日～1月7日、会場：中央図書館
主催：附属図書館、協力：大学史資料センター
（ユニバーサルフィールドコンシェルジュ養成講座と連携）
 - ✓ 連携企画展「松高人名録（その一）」
会期：2019年3月2日～5月6日、会場：旧制高等学校記念館
旧制高等学校記念館、信州大学日本文学分野、大学史資料センターの連携企画
 - ✓ 信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業プレ・シンポジウム
「赤レンガでつなぐとき、まち、ひと」
日時：2019年3月31日、会場：信毎メディアガーデン
主催：信州大学（人文学部、経法学部、医学部、工学部、大学史資料センター）
 - ✓ 企画展示「金栗四三と信州体育教育の歩み」
会期：2019年9月3日～10月4日、会場：中央図書館
会期：2019年10月9日～11月15日、会場：教育学部図書館
主催：教育学部図書館、協力：大学史資料センター
- オンラインでの公開・デジタルアーカイブ
 - ✓ センターWebサイトを附属図書館サイトの一画に開設（2017年8月）
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/about/archives.html>
 - ✓ センターWebサイトをリニューアルし、寄贈された物や制作したコンテンツを紹介・公開できる環境を整えた（2019年1月）
<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/archives/>
 - ✓ デジタルアーカイブで公開するコンテンツとして、『凛 信州「知の森」の文化資産ー信州大学の文化財ー』に掲載されたコンテンツの内容を精査した。

1.2.3 信州大学創立 70 周年・旧制松本高等学校 100 周年記念事業への参画

信州大学創立 70 周年・旧制松本高等学校 100 周年記念事業（以下、「70 周年記念事業」という）において、実施委員会の下に設置された「大学史資料アーカイブ部会」は、センターの教職員を中心に、附属図書館、総務課、広報室の職員で構成し、部会を 5 回開催した。週 1 回のセンターミーティングの他、映像等各種コンテンツの制作を請負う業者を交えた打合せを 6 回実施し、多様なコンテンツの制作・協力を行った。なお、制作したコンテンツはセンターの Web サイトで公開している。

- 『信州大学歴史探訪マップ 1873-2019』の制作【資料 5】 p.37
<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/archives/news/publications/post-21.html>
- 『映像で見る信州「知の森」のあゆみ』の制作・協力
 - ✓ ムービー「信州大学のあゆみ～信州の高等教育：黎明期から大学誕生まで～」
 - 第 1 部 旧制高等学校と大学設置運動
 - 第 2 部 旧制松本高等学校（前編「青春謳歌」、後編「戦争という激流のなかで」）
 - 第 3 部 信州大学誕生
<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/archives/news/news/post-31.html>
 - ✓ スライドショー
 - 1. 信州大学歴史探訪（キャンパスに刻まれた記憶）
<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/archives/news/publications/post-23.html>
 - 2. 松高人名録（その一）
<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/archives/news/publications/post-37.html>
 - 3. 思誠寮生の青春日記
<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/archives/news/publications/post-39.html>
 - ✓ パネル展示
「信州大学今昔（いまむかし）～信州大学の沿革と各学部の系譜～」
- 池上彰氏トークセッション「信州の高等教育黎明期」への協力
<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/archives/news/news/post-32.html>
- 『信大 NOW』70 周年記念事業特集号への協力【資料 6】 p.45
 - ✓ 赤レンガでつなぐ とき、まち、ひと（p.1-2）
 - ✓ 信州大学の歴史：建物に見る、学部と前身校（p.7-8）
 - ✓ 旧制松本高等学校から受け継がれる「教養主義」（p.17-18）
 - ✓ 信大キャンパス ビフォー&アフター（p.19-20）
 - ✓ 寮のお宝大集合！（p.21-22）
 - ✓ マンガで知る信州大学の歴史「信州」という大学名の由来と「信濃の国」（p.21-26）
https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/publication/summary/2019/shindaiNOW_vol117/
- その他
 - ✓ 学部等が主催する周年記念行事（医学部 75 周年：9 月 8 日、工学部 70 周年：9 月 27 日）において、企画展示等への協力を行った。
 - ✓ 70 周年記念事業の一環で、旧制松本高等学校に関連する学生原簿等、本学で永久保存する必要がある公文書のうち、劣化が著しく緊急性が高いものについて、保存・活用のための電子化を行う予定。

各種コンテンツの制作にあたっては、各キャンパスの訪問調査を行い、関係教職員の多大なる協力を得た。また、スライドショーの制作ほか、全般的に、教育学部の蛭田助教、工学部の土本教授、人文学部及び教育学部の学生から、それぞれの専門性を生かした協力を得た。

1.2.4 学芸員養成課程への協力

センターの福島特任教授は、2017年から学芸員養成課程の授業を担当し、2019年度は、特に高度な専門性に裏打ちされた知識が求められる「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」を担当しており、工学部における集中講義も行っている。

- 学芸員課程の体制整備にかかる検討への参画

2018年度より、学芸員養成課程の安定的な体制整備を目的として、教職教育委員会学芸員養成課程実施部会の下に学芸員課程検討WGが設置され、渡邊附属図書館長・センター長、福島センター特任教授、森附属図書館管理課長が参画している。

1.2.5 地域・自治体との連携

地域・自治体との連携策として、以下の活動を行った。

- 旧制高等学校記念館との連携

- ✓ 連携協定締結
- ✓ 旧制高等学校資料研究会委員としての活動（渡邊附属図書館長・センター長）

- 安曇野市との連携

- ✓ 豊科郷土博物館 平成30年度秋季企画展講演会講師「絵地図で見る安曇野市の明治維新」（福島特任教授）
- ✓ 安曇野市文書館業務検討委員会委員としての活動（福島特任教授）

1.3 活動の評価

1.3.1 活動実績について

1.2で述べた通り、資料の収集・整理・保存、調査研究、公開・展示において、いずれも着実な実績を上げている。以下、事項ごとに評価を述べる。

- 70周年記念事業

立ち上げから2年という短い期間で、『信州大学歴史探訪マップ 1873-2019』、『映像で見る信州「知の森」のあゆみ』（ムービー、スライドショー、パネル展示）等、本学の歴史に関する高品質なコンテンツを制作したほか、池上彰氏トークセッション「信州の高等教育黎明期」や『信大 NOW』周年記念事業特集号への協力を行った。

関係部署との緊密な連携によって、記念事業を成功に導く原動力となったことは、極めて高く評価できる。周年記念事業に対する貢献によって、創立から70年という節目の年のゴールとして十二分にその役割を果たしたと言える。今後は、より長期的な視点で本学の歴史を未来へと繋げて行けるよう、腰を落着けて取組んでもらいたい。

- 企画展示

第1回企画展「信州大学今昔（いまむかし）」、第2回企画展「信州大学誕生」は、いずれも70周年記念事業とタイアップした展示である。

- ✓ 2018年2月から開催した「信州大学今昔（いまむかし）」では、本学の創設に関する逸品として、文部省学校教育局長通知「新制国立大学設置について」（1949年5月31日付）を初めて展示した。これは、内部部局において、保存年限を過ぎてはいたが、歴史的な文書として特別に保管されていたものを、センターとして保存したという経緯がある。本学の歴史を物語る最も重要な資料の一つとして発掘され、保存・活用の途を開くことができたことは意義深い。併せて、本学を構成する、特色ある前身校から現在への系譜を学部ごとに概観し、関係部署の協力を得て、各学部が保有する逸品を一堂に集め、展示することができた。
- ✓ 2019年10月から開催中の「信州大学誕生：残された文書が語る誕生の舞台裏」は、明治期に始まった信州における高等教育機関設置を目指した動き、戦後の各前身校の独自の動きが、総合大学としての信州大学誕生へと収斂していく様を、「大学設置認可申請書」、信州大学初回の「入試問題」等、内部部局や各学部に残された文書を丹念に拾い上げて展示することで描き出している。卒業生から寄贈された「卒業証書」も初公開された。

これらの展示は、オープンキャンパスや卒業式・入学式の期間に合わせ、繰り返し開催している。学生や教職員にとって、自分が所属する大学を知ることは大切であり、その機会が提供できたことは本活動の重要な成果である。

- 資料の収集について

資料収集は、センターの最も基礎的かつ重要な業務である。2019年10月末現在、寄贈者数：136名（内訳：卒業生104名、教職員30名、その他2名）、寄贈点数：3,183点という実績は、2年半の成果としては十分であるが、卒業生の累積数が約100,000名であることと比較すると、端緒についたばかりと言わざるを得ない。

2017年のセンター発足以降、各学部の同窓会に依頼して、定期的に寄贈依頼の文書を発送しているが、より有効な方策を検討するため、センターにコンタクトをしてきた卒業生（資料寄贈者・貸出者・情報提供者を含む）の傾向を分析することとした。対象は、コンタクトのあった203名のうち、卒業年代が判明した148名である。

図1は、5年スパンの卒業年代で、所属（出身校・出身学部）ごとに集計した結果である。卒業年代は「1965-1969」の21名、「1970-1974」の20名をピークとして、その前後に集中している。すなわち、ライフイベント（身辺整理）との兼ね合いで、概ね卒業後40～60年後のタイミングに同窓会等を通じて資料の寄贈依頼があれば応じるという傾向が見られる。

開学から20年分は既にタイミングを逸してしまっており、卒業生を親に持つ世代からのコンタクトがある可能性に賭けざるを得ない状況である。また、今後、寄贈の受付を中止した場合は、その期間中の資料が集まらないことが推測される。

すなわち、周年事業の直前になって資料収集活動を行っても網羅的な収集はできず、継続的な活動が重要であることが明らかとなった。

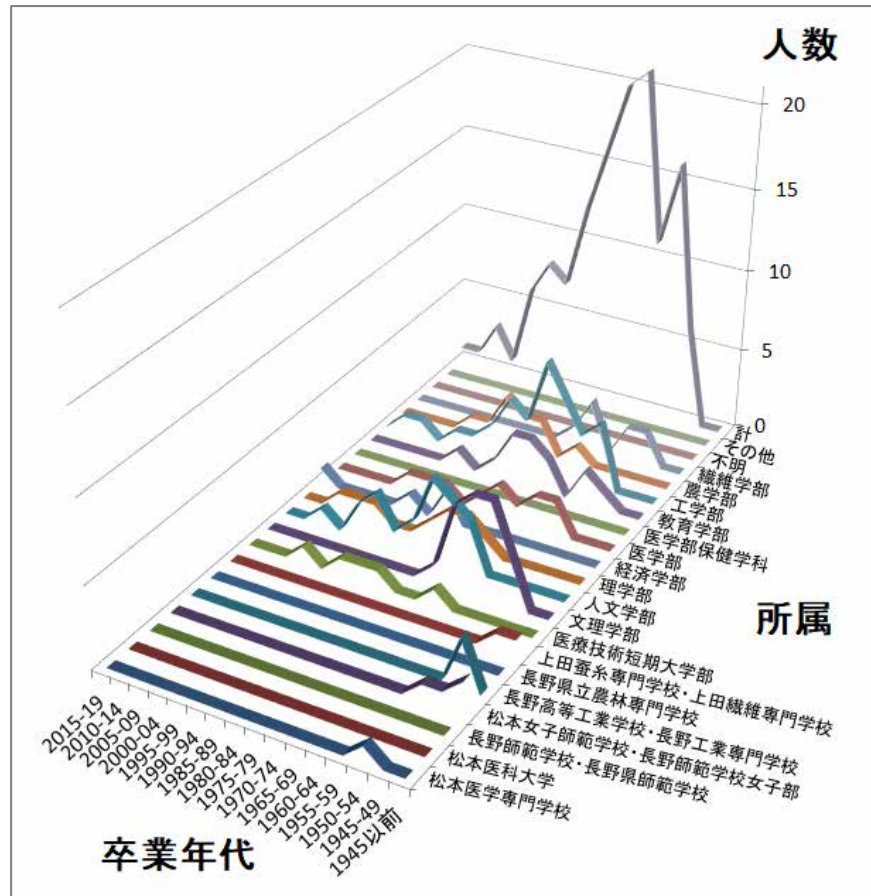


図1 センターにコンタクトがあった卒業生の傾向

- 学芸員養成課程への協力

学芸員養成課程は、9つの必修科目で構成され、本学では人文学部、理学部、工学部が開講している。4つの主要科目をセンターの福島特任教授が担当し、他の科目は人文学部、理学部、工学部、全学教育機構の教員が担当している。更に非常勤講師に依頼する経費は、各学部が協力し、捻出しているが、さらなる負担は極めて困難である。

教職教育委員長宛に学芸員養成課程実施部会長から提出された「2020（平成32）年度以降の学芸員養成課程の存続について（提案書）」（2019年2月）【資料7】p.52においても、センターの存続が強く望まれている。これらの状況から、センター教員は、本学の学芸員養成課程の安定的な運営のために必須の存在であり、教育体制の一角を担う機関としての貢献度は極めて高いと言える。

1.3.2 経費等について

- 事業費について

附属図書館から次世代戦略経費（部局推進プロジェクト）への要求を行っている。各年の報告書及び申請書は【資料8】p.58のとおりで、事業の評価は2017年度4.0点、2018年度4.0点、2019年度3.7点であり、高い評価を得ている。

3年間の実績額・配分額は表1のとおりである。

表 1 次世代戦略経費（単位：千円）

事項	2017 年度実績	2018 年度実績	2019 年度配分
備品費	907	0	210
消耗品費	897	1,874	1,623
その他	549	450	600
謝金	0	0	0
旅費	66	97	330
非常勤職員人件費	48	213	114
合 計	2,467	2,634	2,877

2018～2019 年度は、表 2 のとおり 70 周年記念事業費による事業も行っている。

表 2 70 周年記念事業費（単位：千円）

事 項	2017 年度実績	2018 年度実績	2019 年度実績
消耗品費	0	37	202
旅費	0	35	0
謝金	0	383	0
合 計	0	455	202

● 人件費について

センター特任教授、技術補佐員の人件費は、学長裁量人件費で要求している。

- ✓ 特任教授は年俸制を採用しており、毎年「教員選考委員会」を開いて更新の可否を審議している。2017 年度、2018 年度に開催した教員選考委員会において、非常に高い評価を受け、継続が承認されている。エフォートはセンター業務：授業＝2：1 となっており、これ以上授業の負担を増やさないよう調整する必要があるとの意見が挙がっている。
- ✓ 技術補佐員は、学芸員資格を有する非常勤職員 2 名を中心として、日常業務（問い合わせ対応、資料の収集・整理、Web サイトによる広報等）、及び展示の企画等を行っている。本学の学芸員課程を修了した大学院生、履修中の学生も業務に携わっており、実務を現場で経験する場ともなっている。

2. 今後の展開と組織の在り方

2.1 信州大学大学史資料センターの継続・発展に向けた提言

センターは2年半の活動期間で多くの実績を上げた。特に、70周年記念事業における成果により、記念式典に参加した学内外の関係者（卒業生、学生、教職員）のみならず、本学を取り巻く県内外の地域・社会において、本学の価値を高める一助となった。しかしながら、この成果は、あくまでも本学の発足から70年が経過した時点での中間的なゴールであり、最終ゴールではない。

本学の理念には「信州大学は、山々に囲まれた自然環境及び信州の歴史・文化・伝統を大切に、総合大学として世界に通じる教育・研究を行い、自ら創造できる人材の育成、独創的研究の学際的推進、地域・社会の発展に貢献する」という目標が述べられている。この理念に基づいて、本学が更なる発展を遂げる歴史を継続的に記録し、世の中に発信し、未来へと繋げて行くことが、センターの果たすべき役割である。

また、「PLAN the N・E・X・T 2019-2021」の学術情報に関する目標のうち、Method3「多様な学術情報の提供・発信による教育・研究成果の社会への還元とブランド力向上」において、「信州大学の歴史資料を体系的に収集・整理・保存・発信し、本学の歴史・伝統を知っていただけるよう努めます」と述べている。

これらの役割を果たし、目標を達成するため、第1章で報告した実績と評価を踏まえて、本学の歴史に関わる教育・研究・事業を中心的に行う組織として、センターを今後も継続・発展させることを提案する。

以下、センターの中・長期的な事業計画、組織の在り方について述べる。

2.2 信州大学大学史資料センター中・長期計画

センターの中・長期計画として、従来の「資料の収集・整理・保存、調査研究」「資料の公開・展示」に加え、新たなミッションとして「信州大学100年史の編纂」を行うことを提案する。また、学内への貢献として「自校史教育」の更なる充実、「学芸員養成課程への協力」を行うとともに、「地域・自治体との連携」を強化し、地域と共にあゆむ本学の歴史を、各キャンパスが展開する地域史の一部として位置付けていく。全体像は「信州大学大学史資料センター 中・長期計画（案）」【資料9】p.65のとおりである。

2.2.1 資料の収集・整理・保存、調査研究

引き続き、センターの基礎的業務として、資料の収集・整理・保存、調査研究を行う。

収集する資料の対象は、大きく分けると、大学が作成した資料を収集する「機関アーカイブズ」と、卒業生等からの寄贈品を収集する「収集アーカイブズ」の2種類がある。それぞれの具体的な内容と収集方針は、以下のとおりである。

- 機関アーカイブズの内容：大学が作成した資料
 - ✓ 行政文書（法人文書）
 - ✓ 広報資料（大学刊行物等）
 - ✓ 教育系文書（学部資料等）

- 機関アーカイブズに関する方針：
 - ✓ 機関アーカイブズのうち「行政文書（法人文書）」については、将来的にセンターが公文書館に準ずる機能（法人文書の収集・整理・保管・公開）を持つ必要性が出てきた場合に改めて検討することとし、当面は 100 年史の編纂に必要な収集アーカイブとしての「歴史的資料」を収集・整理の対象とする。
 - ✓ 大学刊行物等の「広報資料」や学部資料に関しては、網羅的な収集ができていない。紙媒体、電子媒体それぞれの収集方針について、今後の検討課題とする。
- 収集アーカイブズの内容：卒業生等からの寄贈等による資料
 - ✓ 卒業生資料（卒業証書、ノート、大学祭パンフレット、写真、映像、音声等）
 - ✓ 教職員資料（学長、教職員が保有する資料）
 - ✓ 関係機関等資料（旧制高等学校記念館、長野県立歴史館ほか）
 - ✓ 歴史的資料（30 年程度を経過した大学行政文書等）
- 収集アーカイブズに関する方針：
 - ✓ 引き続き日常業務として資料寄贈の呼びかけ、収集・整理・保存を行う。
 - ✓ 既に受贈した竹内松次郎氏の資料（段ボール 6 箱）、三村一氏の資料（段ボール 約 50 箱）の資料整理が未着手なので、目録作成等を行う。
- 保存場所に関する方針：
 - ✓ センター設置当初から、独自で資料館を持つ学部等からの強い意見を受けて、「各学部所蔵資料は学部で保存する」という原則があった。今後も、キャンパス間の距離が離れていることや収蔵スペースの問題から、学部所蔵資料は学部保管という方針を踏襲する。ただし、新たに寄贈の打診があったものについては、必要に応じて関連する学部と個別に相談し、学部で保管できない場合はセンターで保管する。
- 収蔵・事務・展示スペース等に関する要検討事項：
 - ✓ センターは人文学部及び経法学部から部屋を借りて運用しているが、寄贈資料の保管スペースは既に 6 割を超えており、将来的に博物館実習を実施する可能性も含めて、スペースの確保を検討する必要がある。収蔵スペースの環境は空調等が必須でランニングコストが高いと言われるが、資料を収める箱の選定等で、コストを下げる工夫ができると考えられる。
 - ✓ その他、あがたの森文化会館の松高同窓会室を借用し、アンテナショップやサテライト・スペースとして活用するアイデアがある。耐震改修後に交渉を再開し、授業での活用も視野に入れて検討する。
 - ✓ その他、本学にゆかりのある地域の文化人の関係資料も収集する。
- 調査研究に関する方針：
 - ✓ 「2.2.2 資料の公開・展示」、「2.2.4 信州大学 100 年史の編纂」に関わる事項を中心に、「ヒアリングによる調査研究」、及び「文献等による調査研究」を継続的に実施する。
- その他の要検討事項：
 - ✓ 構成員による「教育・研究成果」は、機関アーカイブズ、収集アーカイブズとは別に、オープンアクセスの理念に沿って附属図書館が運営する機関リポジトリ

(SOAR-IR) で収集・公開している。センターのデジタルアーカイブとの役割分担を検討する。

- ✓ Web サイトの記事や SNS への投稿など、デジタルにしか存在しない情報の収集についても、今後広報室とも連携しながら検討を進める必要があるだろう。
- ✓ 今回の周年事業に際して作成された様々なグッズについても収集しておく必要がある。大学や学部の名を冠して作成されたグッズは、センターに寄贈して保管していくという流れが自然になるよう、センターそのものを学内他部局に知ってもらうための活動も必要である。

2.2.2 資料の公開・展示（企画展示・講座等の実施、デジタルアーカイブ構築）

● 企画展示・講座等の実施について：

- ✓ 引き続き、収集した資料等を活用した展示や各種の講座を実施する。また、関連機関との連携・協力を行う。
- ✓ 大学全体の歴史に関する展示、前身校を含む部局史に関する展示を行う。100 年史の編纂を意識して、本学にとって重要な出来事、人物、学生生活に焦点を当てた企画を立てる。

● デジタルアーカイブの構築について：

- ✓ 個人のプライバシーや著作権等に配慮し、オンラインで公開できるものについて、メタデータの検討や資料の電子化を進める。
- ✓ 初期の公開対象は、『凜 信州「知の森」の文化資産－信州大学の文化財－』に掲載されたコンテンツのほか、企画展示で使用したものの画像を活用する。
- ✓ デジタルアーカイブのプラットフォームは、国立情報学研究所が開発中の次世代 JAIRO Cloud（2020 年 10 月以降公開の予定）を活用する予定である。現行の JAIRO Cloud システムは、本学の機関リポジトリ (SOAR-IR) で活用実績がある。

● 国際交流への貢献について：

- ✓ グローバル化推進センター、国際部、広報室等の関連部署と連携し、海外に対して本学の歴史・魅力を発信することで、海外からの研究者や留学生にアピールできることが望ましい。具体的な方策は、今後検討する。

2.2.3 自校史教育の更なる展開

従来から、企画展示をオープンキャンパスや卒業式・入学式の期間に合わせて行ったり、センター教員が講師を務める「昼どきセミナー」を授業の一環で受講させたりするなど、事業の成果を自校史教育に活用してきた。今後はより効果的・体系的な展開ができるよう、学内関係部署との更なる連携を図る。

● 新入生を対象とした自校史教育について：

- ✓ 従来から、新入生ゼミナールの 1 コマ（一部の学部・学科は半コマ）で、中央図書館におけるガイダンスを実施しており、全ての新入生が受講している。2020 年度からは、ガイダンスの館内ツアーの一部を大学の歴史に関する展示の閲覧に充てることで、全ての新入生に自校史教育を行うことを検討している。
- ✓ 授業の担当教員に依頼し、期間中に見学するよう働きかけたり、周年記念事業で作成したムービーを見せたりすること等により、全ての新入生に機会を設ける。

- 教職員を対象とした自校史教育について：
 - ✓ 教職員も大学の歴史を知らないことが意外と多い。初任者研修で説明できるのが理想であるが、既にカリキュラムは過密状態なので、展示のリーフレットを配布し、休み時間に閲覧するよう呼びかけるのが良い。当日、ギャラリートークを実施するのも効果的である。

新入生や初任者以外の教職員向けにも、「週刊信大」や「信州大学サポーターズクラブ」といったメルマガや各種の SNS で情報発信する等、継続的に広報を行う。

2.2.4 信州大学 100 年史の編纂

本学の更なる発展を期し、長期的な目標として「信州大学 100 年史」（以下「100 年史」という）の編纂を行うことを提案する。

● 事業計画の単位

「100 年史」編纂に向けた長期スケジュールは、図 2 のとおりである。中期目標・中期計画の Spann や、各学部（前身校を含む）の周年を念頭に置き、次の節目となる 2029 年度の創立 80 周年、2039 年度の創立 90 周年を目指した事業を行いつつ、2049 年の 100 周年を目指した 10 年単位の長期的な事業計画を立てる必要がある。より詳細な事業計画（第 5 期中期目標期間中まで）は、【資料 9】 p.65 のとおりである。

西暦（下2桁）	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51
周年の節目	70	80周年										90周年										100周年											
事業の流れ	80年を目指す事業										90年を目指す事業										100年を目指す事業										次へ		
	100年を目指す事業										100年を目指す事業										100年を目指す事業												
中期目標・中期計画	第3期		第4期		第5期		第6期		第7期		第8期																						

図 2 「100 年史」編纂に向けた長期スケジュール

- 「100 年史」の目的と目指すべき姿

本学の創立 100 年に至る歴史・伝統を記録し、教育・研究の成果を内外に積極的に公開し、本学の存在意義を世の中に発信することで、未来へ繋げることを目的とする。

「100 年史」の構成は、(1) 全体史、(2) 部局史、(3) 資料編の 3 本立てを想定し、30 年後の最新の技術・情報行動・文化に照らして、最もふさわしい形態で制作する。
- 「100 年史」編纂にかかる業務（日常～中期～長期）

長期にわたる業務となるが、日常的な資料収集業務がすべての基礎となる。その土台の上に「100 年史」の編纂に係る以下の業務を積み上げていく。

 - ✓ 70 周年記念事業に際して収集した資料、及び、今後新たに受贈・収集する資料の整理・保存、調査研究、及び資料の展示・公開（日常）
 - ✓ 年史のシナリオ案の作成（構成・章立て等）（日常～長期）
 - ✓ 年表の作成（大学全体、卒業生・教職員の動向を記録）（日常～長期）
 - ✓ 80 年、90 年といった節目の年のとりまとめ（中～長期）
 - ✓ 100 年史の歴史叙述、及び資料のとりまとめ（長期）

- 「100 年史」編纂に向けた体制作り

現体制のまま「100 年史」を編纂するのは難しく、新たな体制作りが必要である。
詳細は「2.3 組織の在り方について」で述べる。

2.2.5 学芸員養成課程への協力

- 学芸員養成課程の授業について

引き続き、センター教員が学芸員養成課程の授業を担当する。

県内外の学芸員等との人的ネットワークをより緊密にすることで、現職の学芸員から学生が学べる体制を強化する。さらに、現職の学芸員の学び直しの機会を提供する。

県内で学芸員養成課程を持つ他の大学等との連携も、今後の課題とする。

- 博物館実習について

将来的に、センター施設の拡充（収蔵庫・作業・展示用のスペース）ができた場合は、博物館相当施設の指定を受け、博物館実習の受入ができることが望ましい。

学内では自然科学館が理系の学芸員の養成を行っている。センターは、自然科学館と緊密に連携しつつ、主に文系の学芸員の養成機能を持つことが望まれる。

2.2.6 地域・自治体との連携

- 『日経グローバル』の 2019 年「大学の地域貢献度調査」で総合ランキング 1 位を獲得する等、地域貢献における評価が高い本学の特色を生かし、地域と共にあゆむ本学の各キャンパスの歴史を、地域史（歴史・文化・産業等）の一部として位置付けていく。

- 一つの事例として、松本キャンパスの赤レンガ倉庫の活用が挙げられる。2018 年度のシンポジウムの開催、2019 年度のクラウド・ファンディングの実施、長野県松本地域振興局による「近代化遺産カードマップ」プレミアムカードへの採用等によって、徐々に認知度が高まってきているので、こうした動きを引き続き後押しする。

- MLA 連携「信州 知の連携フォーラム」について

2016 年から県内の文化施設（県立長野図書館、長野県信濃美術館、長野県立歴史館）と本学附属図書館の 4 者で実施している MLA（Museum, Library, Archives）連携において、（1）電子情報の共有化と新たな発信の展開、（2）（1）に伴う新たな人材育成という 2 つの課題解決に向けた取組について、より積極的に関与する。

- その他、地域が抱える課題等について、研究的・教育的観点からのアドバイスを行う。各自治体におけるセンター教員の講座や、自治体委員会等の地域貢献を行う。

2.3 新たな組織の在り方について

学術情報・図書館委員会においてセンターの設置にかかる審議を行った際、附属図書館の下に位置付けるかどうかが論点となった。全学に関わる業務を行う部署は、「特定部局の下ではなく大学直轄であるべき」という意見や、「センターが図書館の下に設置されることによって、学部図書館の所掌業務が増えるのではないか」という懸念があった。

そこで、センターの継続・発展を提案するにあたり、他の国立大学の状況を調査し、検討の参考にすることとした。

センターで実施した「国立大学における大学史に関わる組織の実態調査」（以下「実態調査」という）について、概要と結果を述べる。詳細は【資料 10】 p.66 を参照されたい。

● 実態調査の概要

- ✓ 調査対象：国立大学図書館協会（国大図協）加盟館（92 館）
- ✓ 実施期間：2019 年 9 月 6 日（金）～2019 年 9 月 27 日（金）
- ✓ 回答数：54 件（53 大学）
- ✓ 質問項目：「大学史を扱う組織の有無」組織がある場合「事務担当」「運営体制」等

● 実態調査の結果の概要

- ✓ 回答全体のうち、大学の歴史を担う組織が「ある」と回答した大学が 21（39%）、
「ない」と回答した大学が 33（61%）であった。
- ✓ 「ある」回答のうち、事務を担当する部署は、図書館 10（47%）、総務部 7（33%）、
文書館 2（10%）、その他 2（10%）の順で、図書館が最も多い。
- ✓ 組織の運営体制については、「当該組織単独の委員会がある」との回答が 16 件
（76%）あり、多くの組織において単独の委員会が運営を行っている

● 事務担当部署別に見た業務内容の傾向

業務内容について、実施機関が多い順に、担当部署をまとめたのが表 4 である。

- ✓ 「資料の調査・研究」、「個人資料等の収集・整理・保管」「資料の公開（閲覧）」
については、多くの組織が実施していた。
- ✓ 資料公開のうち「展示・デジタルアーカイブ」、「学芸員養成課程」に関わる業務
は、図書館が事務担当の組織が実施している割合が高い（緑色）。一方、「年史の
編纂」「文書館の運営」「法人文書」関係業務、「ニュースレター・紀要等の発行」
は、総務部が事務担当の組織が実施している割合が高いという傾向が見られた（黄
色）。

表 4 大学の歴史に関する業務内容別の実施状況と担当部署

業務の内容	実施している					実施して いない
	図書館	総務部	文書館	その他	計	
資料の調査・研究	9	6	2	2	19	2
個人資料の収集・整理・保管	8	6	2	2	18	3
資料の公開（閲覧）	7	6	2	2	17	4
資料の公開（展示）	7	3	2	2	14	7
法人文書等の収集・整理・保管	4	6	2	1	13	8
ニュースレター・紀要等の発行	2	6	2	2	12	9
文書館の運営（内、公文書館指定有）	3(2)	4(4)	2(2)	1(0)	10(8)	11(2)
資料の公開（デジタルアーカイブ等）	5	2	0	2	9	12
博物館の運営（うち、博物館指定有）	3(2)	1(1)	0	2(2)	9(6)	15
年史の編纂	1	3	1	0	5	16
学芸員養成課程科目の担当	2	0	0	1	3	18
学芸員養成課程の実習受入	2	0	0	2	4	16

調査結果を踏まえて検討した結果、今後の在り方について、以下の方針を提案する。

- 現時点のセンターの業務内容から考えると、現行のとおり附属図書館が事務を担当するのが妥当である。
 - ✓ 従来から図書館は大学や学部の歴史等に関する調査を受けており、図書館の本来業務であるレファレンスの 1 つとして位置付けられる。従来どおり、照会窓口は各学部の庶務担当に依頼し、関係部署が緊密に連携しながら、特定の部署に負担がかからないよう配慮する。
- 組織の運営体制として、全学的な専門的な委員会組織が必要である。
 - ✓ 運営委員会の設置に際しては、年度計画や予算等の報告・承認のためだけの委員会ではなく、「100 年史の編纂」を目指した専門的かつ実質的な運営組織として、学部の代表としてコミットしていただける委員組織が必要である。各委員には、自部局の情報収集・提供のほか、全学的な視点からの提言や協議への取り組みが期待される。
- 年史の編纂業務を担うにあたっては、関連部署との連携・協力が不可欠である。
 - ✓ 年史の編纂にあたっては、公文書の歴史資料としての取扱いが必要である。他大学の調査結果にも見られるとおり、総務部を始めとする、関連部署との連携・協力が不可欠である。
- 将来的に、センターが法人文書の収集・整理・保管等の業務または、公文書館の運営を担うことになった場合は、組織の在り方について改めて検討する必要がある。

予算については、昨今の厳しい財政状況を踏まえ、当面の間、事業費は次世代戦略経費（部局推進プロジェクト）、人件費は学長裁量人件費の要求を、附属図書館から行うのが現実的である。

組織の在り方、運営体制・予算の在り方については、中・長期計画に基づき、今後も不断の見直し・改善を行う必要がある。

以上、本学の創立 100 周年を期し、その先の未来に向けた更なる発展を祈念して、報告とする。

信州大学大学史資料センター設置について

設立趣旨

信州大学は、部局ごとに戦前からの異なる長い歴史を有し、戦後の1949年に新制大学として統合されてからも、はや70周年を迎えようとしている。しかしながら、長い大学史における貴重な資料が、現状では廃棄・煙滅の危機に瀕している。貴重資料の収集・整理・保存をすることが、焦眉の急である。そのため、資料の収集・整理・保存をする機関を設立する。その各部局の資料はデジタル化したのち、バーチャルな全信州大学大学史資料センターを通して、資料の公開を行なう。

業務概要

各部局の同窓会及び校友会との連携により、信州大学の歴史資料の体系的収集・整理・保存を行い、デジタルアーカイブスを構築する。構築後は、電子データによる公開、展示等の業務を担う。

原資料の所蔵・管理スペース

原資料の所蔵・管理は、各キャンパス・部局等で配慮する。

- ・松本キャンパス(人文学部・経法学部・理学部・全教構・医学部): あがたの森文化会館等
- ・上田キャンパス(繊維学部): アーカイブス館の構想を推進する
- ・長野キャンパス(教育学部)、長野キャンパス(工学部): 検討する
- ・伊那キャンパス(農学部): 検討する

タイムスケジュール

平成28年度 大学史資料センター設置準備

- (2016年) 大学史資料の調査・収集・整理を開始する。
※繊維学部は、資料の収集・デジタルアーカイブス化は終了している。

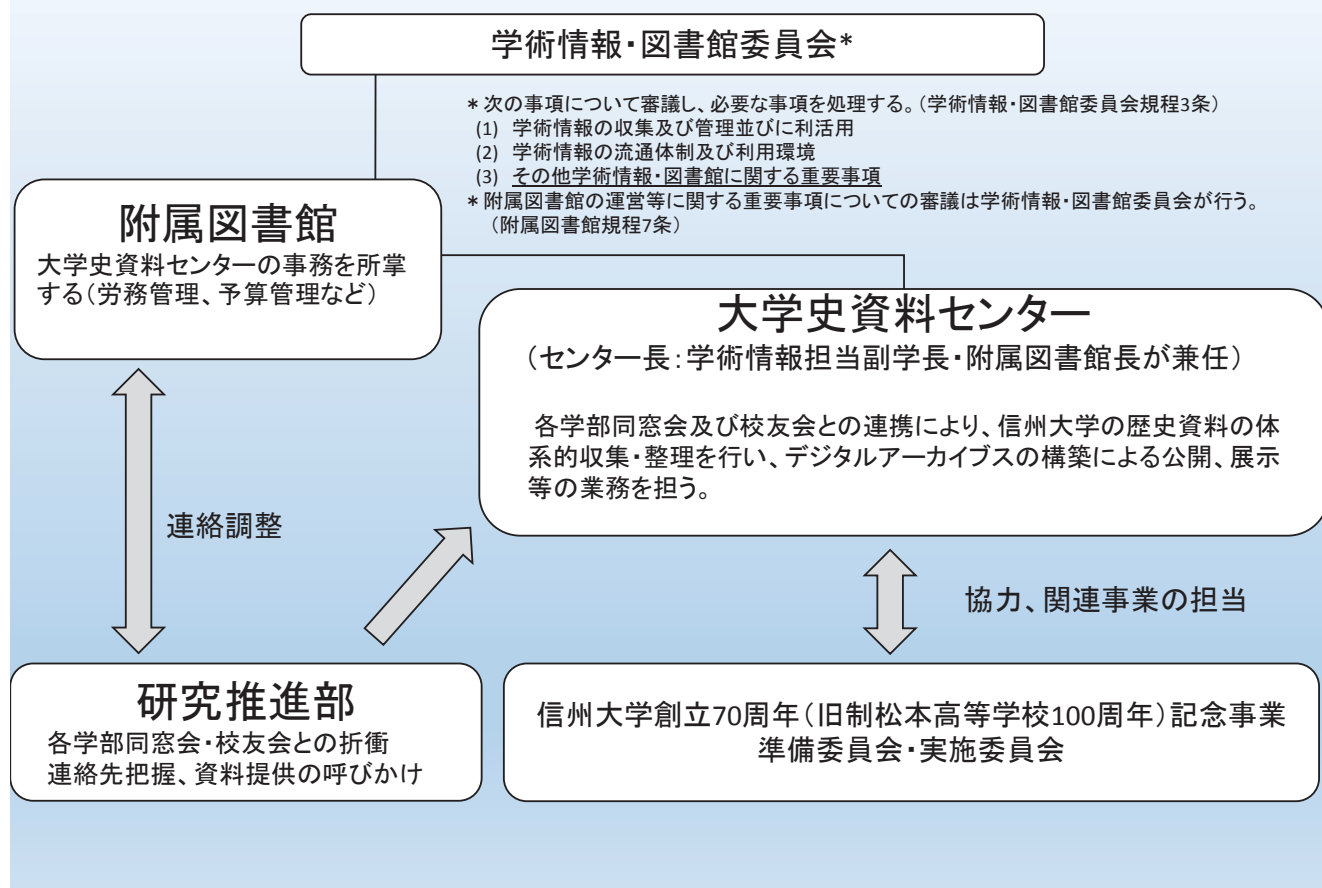
平成29年度 大学史資料センター設置

- (2017年) 各部局の大学史資料の調査・収集・整理状況を把握し、今後のデジタルアーカイブス化に向けたロードマップを作成する。
- ・人文学部・経法学部・理学部については、文理学部歴史資料を含め調査・収集・整理し、デジタルアーカイブス化を開始する。
 - ・医学部、教育学部、工学部、農学部、全教構については、ロードマップに基づき同窓会等との連携及び各部局の協力を仰ぎ、信州大学歴史資料の調査・収集・整理を推進し、デジタルアーカイブス化を開始する。

平成31年度 大学史資料の公開、展示

- (2019年)
- ・信州大学創立70周年記念事業の一環として、文理学部、繊維学部で整理した資料やデジタルアーカイブスの公開、展示の業務を開始する。各部局の調査・収集・整理は終了するまで、引き続き継続していき、順次公開、展示の業務を開始する。
 - ・大学史資料センターは、3年間の活動を総括し、今後の展開と組織の在り方の見直しを検討する。

(仮称)大学史資料センター 組織イメージ



大学史資料センター スタッフ想定

センター長 1名

学術情報担当副学長・附属図書館長が兼任
 渡邊匡一…人文学部教授

特任教授 1名【週4日】

現在、学芸員課程非常勤講師(平成28年度は年間5科目10単位を担当)
 福島正樹…長野県立歴史館 学芸部文献史料課 専門主事兼学芸員

技術補佐員 2人で週30時間

アーカイブス構築作業
 信州大学人文学部卒業生(学芸員資格保有者)を想定している

事務補佐員 1名【週30時間】

信州大学大学史資料センターの設置とその活動

福島 正 樹 （信州大学大学史資料センター）

はじめに

信州大学は、戦前に設立された 7 校に及ぶ前身学校の伝統をふまえ、昭和 24 年（1949）6 月 1 日に発足し、平成 31 年（2019）で 70 周年を迎える。この年は同時に、大正 8 年（1919）に開学した旧制松本高等学校の 100 周年にもあたる。

そこで、信州大学は、「信州大学大学史資料センター（Shinshu University Archives）」（以下「大学史資料センター」と略す）を平成 29 年 4 月 1 日に設置し、周年記念事業の準備を進めるとともに、その過程で大学の歴史に関する資料の収集・整理、展示会の開催などを行い、これまで必ずしも十分な取り組みができなかった本学の歴史に関する資料の収集・整理・公開、調査研究等に取り組むこととした。

本稿は、大学史資料センターの目的と活動内容を紹介し、今後の課題、方向性について述べることにする。まず前提として、平成 28 年度に作成された設置構想についてふれておきたい。

1 大学史資料センター設置の構想

大学史資料センターの設立に際し、設置が承認された際（平成 29 年 2 月 1 日第 410 回役員会）に作成された資料（「信州大学大学史資料センター設置について」。以下設置構想と略称）に基づき、設置構想の概要を記す。

（1）設立趣旨

信州大学は、部局ごとに戦前からの異なる長い歴史を有し、戦後の昭和 24 年（1949 年）に新制大学として統合されてからも、はや 70 周年を迎えようとしている。しかしながら、長い大学史における貴重な資料が、現状では廃棄・散逸の危機に瀕している。貴重資料を収集・整理・保存することが焦眉の急である。そのため、資料の収集・整理・保存をする機関を設立する。その各部局の資料はデジタル化したのち、バーチャルな信州大学大学史資料センターを通して、資料の公開を行う。

（2）業務概要

各部局の同窓会及び校友会との連携により、信州大学の歴史資料の体系的収集・整理・保存を行い、デジタルアーカイブズを構築する。構築後は、電子データによる公開、展示等の業務を行う。

（３）原資料の所蔵・管理スペース

原資料の所蔵・管理は、各キャンパス・部局等で配慮する。

- ・松本キャンパス（人文学部・経法学部・理学部・全教構・医学部）：中央図書館、旧制高等学校記念館等
- ・上田キャンパス（繊維学部）：アーカイブ館の構想を推進する。
- ・長野キャンパス（教育学部・工学部）：検討する。
- ・伊那キャンパス（農学部）：検討する。

（４）タイムスケジュール

平成 28 年度：大学史資料センター設置準備

大学史資料の調査・収集・整理を開始する。

- ・繊維学部は、資料の収集・デジタルアーカイブズ化は終了している。

平成 29 年度：大学史資料センター設置

各部局の大学史資料の調査・収集・整理状況を把握し、今後のデジタルアーカイブズ化に向けたロードマップを作成する。

- ・人文学部・経法学部・理学部については、文理学部の歴史資料を含め調査・収集・整理し、デジタルアーカイブズ化を開始する。
- ・医学部、教育学部、工学部、農学部、全教構については、ロードマップに基づき、同窓会等との連携及び各部局の協力を仰ぎ、信州大学歴史資料の調査・収集・整理を推進し、デジタルアーカイブズ化を開始する。

平成 30 年度：大学史資料センター業務の推進

平成 29 年度事業の継続及び平成 31 年度記念事業等の準備

平成 31 年度：大学史資料の公開・展示

- ・信州大学創立 70 周年記念事業の一環として、各部局で整理した資料やデジタルアーカイブズの公開、展示の業務を開始する。
- 各部局の調査・収集・整理は終了するまで、引き続き継続していき、順次公開、展示の業務を開始する。
- ・大学史資料センターは、3 年間の活動を総括し、今後の展開と組織の在り方の見直しを検討する。

（５）組織とスタッフ

大学史資料センターは、附属図書館に附置し、学術情報・図書館委員会のもとで運営にあたる。センター長は学術情報担当副学長・附属図書館長が兼務し、スタッフとして、特任教員及び技術補佐員・事務補佐員を配置する。

（６）設置構想の特徴

以上が、平成 28 年度にまとめられた設置構想である。平成 31 年に信州大学 70 周年・旧制松本高等学校 100 周年を迎えることを契機に、これまで全学的視点から取り組まれることのなかった「信州大学アーカイブズ」を立ち上げ、やがて大きく育てるという展望のもとに設置されたものである。

この構想の特徴は、長野県内 4 地区にキャンパスが分散し、かつ歴史的経緯が異なり、独立性の強い学部によって構成されているという本学の特徴をふまえ、まずは資料の実物は各学部での保存を基本とし、大学史資料センターはそれら資料の所在情報と、デジタルデータを収集、整理、活用する、という点である。そして、平成 31 年度にはそれまでの活動の成果を踏まえ、その後の大学史資料センターの方向性を検討することになっている。

なお、大学史資料センターの大学内における位置づけについては、平成 29 年 4 月 1 日から施行された「信州大学附属図書館規程」(<https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/regulations/act/frame/frame110000289.htm>) 及び「信州大学大学史資料センター規程」(<https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/regulations/act/frame/frame110001011.htm>) を参照いただきたい。

２ 活動計画の策定と事業の推進

（１）大学史資料センターの運営方針の決定

日本におけるいわゆる「大学アーカイブズ」は、その設立趣旨の違いから、1) 公文書館型、2) 年史編纂型、3) 創立者・創立経緯重視型、4) 同窓会対応型の 4 つに類型化できる（小池聖一「日本の大学アーカイブズー広島大学文書館を一例にー」（『アーカイブズ』48 号 2012 年））。この類型を念頭に、本学の大学史資料センターを位置づけると、設置構想においては「年史編纂型」を念頭に構想されたものと判断できる。

しかし、平成 31 年度までの 3 ヶ年計画の中では、出版物としての年史（記念誌）を編纂刊行する事業は組み込んでいない。すなわち、平成 31 年における信州大学創立 70 周年・旧制松本高校 100 周年記念事業を実施し、そのための関係資料の収集・整理・保存、展示、デジタルアーカイブズ化を進めることが目指されているのである。いずれかの時期に歴史叙述としての「年史」が必要になるであろうが、そのための基礎データの収集と調査研究、活用・公開に主たる役割が求められているのである。

そこで、センターが設置された 4 月当初に行ったことは、こうした設置の基本構想をふまえ、

本年度活動を開始するにあたり、実施業務を整理（どのような業務をどのような手順で実施するのかを整理し、計画を立案）し、平成31年度までの当面の事業内容とタイムスケジュールを別表1のとおり策定した。

中期目標・中期計画			第3期(平成28年度～平成33年度)					第4期(平成34年度～平成39年度)							第5期(平成40年度～平成45年度)			
	資料群	事 例	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度	平成39年度	平成40年度	平成41年度	平成42年度	
収集アーカイブス	卒業生資料	卒業証書、ノート、大学祭パンフ、写真	準備期間	収集開始	収集	収集・総括	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
	教職員資料	学長資料、教職員資料		収集開始	収集	収集・総括	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
	関係機関等資料	長野県立歴史館、旧制高等学校記念館ほか		収集開始	収集	収集・総括	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
	歴史資料系資料	30年程度を経過した大学行政文書等		検討・収集開始	収集	収集・総括	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
機関アーカイブス	広報資料	刊行物など		検討	検討	方針検討												
	行政文書（大学本部）	法人文書		検討	検討	方針検討												
	教育系文書（学部資料）	研究アーカイブス		検討	検討	方針検討												
						↑70周年 ／100周年											↑80周年 ／110周年	

（別表1）信州大学大学史資料センターの事業計画

まず、信州大学アーカイブズとして取り組む事業を、「収集アーカイブズ」と「機関アーカイブズ」の大きく二つに区分し、平成31年度までの3ヵ年の重点は、「収集アーカイブズ」（卒業生資料、教職員資料、国・自治体等関係機関資料、歴史資料系資料）に置くこととし、「機関アーカイブズ」（大学組織によって生まれる公文書・法人文書等）に関しては、情報の収集や方針の検討を中心に行うこととし、本格的な取り組みは平成32年度以降の課題とした。

なお、資料収集等にあたっては、資料取扱い要綱を決める必要があるが、本年度については、試行錯誤が予想されることから、資料取扱い要綱（案）を作成し、資料の収集、整理、保存、公開・活用までを含む要綱の策定は次年度以降にすることとした。したがって、本年度は資料の一般に向けての閲覧・公開業務については、展示会を除き行わないこととした。

（2）資料の収集・整理・保存の体制作り

＜資料整理室＞

卒業生などの外部からの問い合わせの受付、資料の整理・保存の作業を行うために、経法学部

の一室を事務室兼資料整理室として確保し、月曜日から水曜日の9時～4時の間業務を行うこととした。今年度の体制は、センター長（学術情報担当副学長＝附属図書館長を兼務）、特任教員1人、技術補佐員3人、事務補佐員1人である。

＜資料提供の呼び掛け＞

収集アーカイブズで最初に取り掛かったのは、大学本部の研究推進部を通じて各学部の同窓会に依頼し、卒業生の持っている資料の提供を呼び掛けることであった。（資料1「信州大学の歴史に関わる資料と情報のご提供について（お願い）」）提供資料として想定したものは、そこに例示したように、いずれも主として学生生活に関わるものである。卒業生、職員向け資料提供の依頼状は、74,300通（平成29年12月31日現在）発送している。

なお、平成29年度後半からは、信州大学附属図書館と連携協定を結んでいる県内図書館を通じて資料提供の依頼状を図書館利用者に配布している。

平成29年4月3日

信州大学校友会校友の皆様
信州大学同窓会連合会および各同窓会会員の皆様
信州大学教職員の皆様

国立大学法人信州大学長 濱田州博
大学史資料センター長 渡邊匡一

信州大学の歴史に関わる資料と情報のご提供について（お願い）

日頃から信州大学の教育研究・地域貢献活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。
このたびは信州大学は、本学の歴史を明らかにし将来に伝承するため、「信州大学大学史資料センター」を設置し、現状では散逸が危惧される本学に関する資料の収集・整理・保存を推進することといたしました。

つきましては、信州大学の歴史に関する文書、写真、記念品などの資料と、それに関する情報を
お寄せいただきたく、お願い申し上げます。

対象は、教科書、卒業アルバム、スナップ写真、クラブ・サークルの活動記録、広報誌など皆様の
学生時代のなげない品々が、信州大学の大切な歴史的資料となります。お手持ちの資料をご
寄附・ご貸与いただけます方は、まずご連絡ください。

また、お手持ちの資料には、貴重なもの・思い出の品でお手元に置いておきたいものなども
おありのことと思います。ご寄附ではなくとも、記録や写真撮影等のご相談をさせていただきます
いと存じますので、ぜひ情報をお寄せください。

記

○ご提供いただきたい資料の例

- ・教科書、ノート、合格通知書、学生証、賞状、卒業証書
- ・卒業アルバム、スナップ写真
- ・クラブやサークルの活動記録・発行物・記念品
- ・広報誌、大学祭のパンフレット
- ・旗、書柬

など、信州大学に関するもの全般

○お寄せいただいた資料の活用について

平成29年4月1日から、附属図書館のもとに「信州大学大学史資料センター」を設置し、資料の収集・整理・保存を行って、所在と内容の把握を進めております。

平成31年度の「信州大学創立70周年（旧制松本高等学校100周年）記念事業」の一環として、資料の展示を行います。

資料を教材として利用するなど、これからの学生の教育に活用する方法を検討します。

○お問合せ・連絡先

信州大学 大学史資料センター 390-8621 松本市旭3-1-1
TEL: 0263-37-3531 内線: 811-3411 FAX: 0263-37-3532
電子メール archive@shinshu-u.ac.jp
担当: 特任教員 坂島正樹
技術補佐員 茂原、鈴木、中畑
業務日時: 月～水 9:00-16:00

資料1 資料提供の依頼文

＜各部局等における資料の現状の把握＞

次に、各学部長・図書館長あてに同趣旨の文書を送り、各学部で保管している各種資料についての情報提供を呼び掛け、必要に応じてセンター職員が出張し調査を行った。想定した資料としては、各学部に保管されている歴史資料としての公文書（法人文書）のほか、歴史的価値のある

文化遺産などである。

ちなみに、文化遺産については、平成 25 年度に広報課と附属図書館が中心になって『凛—信州「知の森」の文化資産』という冊子を発行し、各学部で所蔵する建造物 6 件、絵画・彫刻 32 件、書跡 16 件、典籍・古文書 16 件、歴史を語る品々 13 件、計 83 件を紹介している。今回は、こうした既知の資料はもちろん、それ以外の未だ所在の明確でない資料についても、可能な限り調査することとした。なお、附属図書館で保管する「旧制松本高等学校資料」についても、これまで整理がなされていないことから、その整理も並行して進めることとした。ただ、これら調査資料に関する情報の整理方法など、その取り扱いについては今後の課題である。

資料調査先			調査事項	結果
信州大学	大学本部	総務課・経営企画課	信州大学創立に関する資料	設立に関する一連の文書の所在を確認
	大学本部	環境企画課	大学施設に関する建設、修繕関係資料	1949年～2005年までの大学施設の修理履歴
	人文学部	学務課	学部所蔵の資料	学部長室保管の思誠寮の瓦、思誠寮日誌、学生原簿等
	教育学部	図書館・同窓会	教育学部設立に関する資料	年史編纂に関する資料を確認
	理学部	理学部・自然科学館・同窓会	学部所蔵の資料	年史資料ほか
	医学部	図書館・同窓会	学部所蔵の資料	初代医学部長竹内松次郎作「官舎之記」、年史編纂に関する資料（写真）
	医学部	医学部資料室 （五十連隊糧秣庫）	現状調査	建物を覆う蔦類の除去、煉瓦の補修必要
	医学部	部室（煉瓦造）	建築構造、建築時期、資料的価値	工学部建築学科に調査依頼
	工学部	総務課・学務課・同窓会	工学部設立等に関する資料	工学部創立期の資料（長野工業専門学校から工学部への移行期の文書群ほか）を確認
	農学部	図書館・同窓会・資料館	農学部設立に関する資料	農学部同窓会が保管
	繊維学部	図書館・同窓会	上田蚕糸専門学校時代の書類等	主要資料のデジタルアーカイブを実施済み。明治44年からの備品台帳類の所在を確認
松本市立博物館			松本高校、信州大学関係資料（写真等）	写真 21 点確認。
長野県立歴史館			長野師範学校等信州大学に関係する資料	師範学校資料、松本高校設立意見書、信州大学設立時の関係資料など
自衛隊松本駐屯地		資料館	五十連隊関係資料の有無	旧五十連隊門柱、「陸軍用地」石柱、

表 1 平成 29 年度の資料調査の概要

（３）収集・整理・保存、活用等の実績

今年度、大学史資料センターで収集した実物資料の中心は、卒業生や旧教職員から提供（寄贈）された資料である。

＜寄贈希望者へのヒアリングと寄贈のお願い＞

資料収集の方法のひとつは、卒業生等からの資料の寄贈である。大学史資料センターに電話、

メール、FAX などにより問い合わせいただいた方に、どのような資料をご寄贈いただけるのかなどを伺い、問い合わせ票に記録し、可能な限り「寄贈」という方法での収集をお願いしている。

「資料をご寄贈いただくにあたって」（資料 2）という文書に同意いただいた上で、資料寄贈申込書を提出いただき、受け入れの可否を判断、その結果を相手に連絡し、受け入れが決まった資料をお送りいただいている。

大学史資料センターがある松本キャンパスに近い卒業生、教職員のなかには、直接ご持参いただく方もあり、そういう場合は、在学・在職時の様子をうかがうよい機会ともなっている。

なお、系統的な取り組みにはなっていないが、教員 OB、職員 OB からの聞き取り調査も徐々に進めている。

平成 29 年 5 月 20 日

資料寄贈者各位

信州大学 大学史資料センター

資料をご寄贈いただくにあたって

このたびは貴重な資料をご寄贈いただきまして、まことにありがとうございます。
ご寄贈いただきました資料は大切に保存し、下記のとおり取り扱わせていただきますので、
ご了承ください。

記

- 1 ご寄贈いただきました資料は、信州大学大学史資料センターにおける調査研究、展示、普及公開等の事業に活用させていただきます。
- 2 取扱にあたりましては、個人情報の保護等に十分留意いたします。
- 3 ご寄贈いただいた資料に本学がすでに所蔵している図書等があった場合、ご相談の上、返却させていただくなど、受け入れができない場合がございます。
- 4 ご寄贈いただくに当たり、特約事項がございましたらお知らせください。

〇お問合せ・連絡先
信州大学 大学史資料センター 390-8621 松本市旭 3-1-1
TEL:0263-37-3531 内線:811-3411 FAX:0263-37-3532
電子メール archives@shinshu-u.ac.jp
担当：特任教授 福島正樹
技術補佐員 茂原 鈴木 中畑
業務日時：月～水 9:00-16:00

資料 2 資料を寄贈していただくにあたって

＜資料の整理・登録と写真撮影、受領書の送付＞

お送りいただいた資料について、資料の名称と点数を確認し、その資料データをエクセル表に

登録し、あわせて資料寄贈者へ渡す受領書の作成と寄贈資料の写真撮影を行い、それを CD に収納し、受領書と一緒に返送している。

＜資料の保存＞

資料は基本的に 1 点ずつ中性紙の封筒に入れ、寄贈者ごとに中性紙の保存箱に入れて保管している。今年の時点で独立した収蔵施設は確保できていないので、大学史資料センター（資料整理室）の一角に置いている。一定の環境が保たれた収蔵スペースの確保が課題である。

＜資料収集の実績＞

今年度から収集作業を開始した。収集資料（寄贈）の点数は下記の通り。（平成 30 年 3 月 13 日現在）

卒業生 寄贈 47 件 資料点数 1,199 点、

教職員 寄贈 15 件 資料点数 181 点

＜WEB サイトの開設・収集資料のデジタル化準備＞

資料の整理作業を行いながら、写真撮影も実施している。また、大学史資料センターの WEB サイト（<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/about/archives.html>）を 8 月に立ち上げ、サイト内で資料収集の状況、収集した資料の写真（一部）の公開を 11 月から開始した。

＜展示・活用＞

平成 31 年度の記念事業のイベントとして、中央図書館の展示スペースを利用した展示会を企画し、その第 1 回大学史資料センター企画展「信州大学今昔（いまむかし）」を、平成 30 年 2 月 22 日（木）～3 月 19 日（月）、4 月 26 日（木）～5 月 14 日（月）の前期・後期に分けて計画し、原稿執筆している現在、前期展示を開催している。

～ 信州大学創立 70 周年・旧制松本高等学校 100 周年記念事業イベント ～

信州大学 第 1 回 信州大学史資料センター企画展

今昔（いまむかし）

信州大学は、戦前に設立された前身校 7 校の伝統を引き継ぎ、1949 年 6 月 1 日に開学しました。本展では、創立当時の姿がわかる資料や写真を展示し、現在までの大学の移り変わりなどを紹介します。

前期 2018 年 2 月 22 日（木）～ 3 月 19 日（月）
[2/25（日）、3/12（月）は休館]
月～金 8:45～17:00、土日祝 10:00～17:00

後期 2018 年 4 月 26 日（木）～ 5 月 14 日（月）
[休館なし]
月～金 8:45～22:00、土日祝 10:00～19:00

場所 信州大学中央図書館 1 階展示コーナー
（松本キャンパス 松本市旭 3-1-1）

主催 信州大学附属図書館 信州大学史資料センター
お問い合わせ先 1580-87000 ▶ 資料利用課（資料利用係）〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 TEL 1580-87-2207 FAX 1580-87-2212 E-mail archives@shinshu-u.ac.jp

信州大学は、戦前に設立された前身校 7 校の伝統を引き継ぎ、1949 年 6 月 1 日に発足しました。来る 2019 年は信州大学創立 70 周年の年になり、同時にこの年は旧制松本高等学校の 100 周年にもあたっています。これを契機に 2017 年 4 月、信州大学史資料センターを立ち上げ、大学の歴史に関する貴重な資料の収集、整理、保存に努めるとともに、大学の歩みを展示等を通じて紹介することとしました。今回はその第 1 回の企画展として、信州大学の成り立ちを、各学部の所蔵する特色ある資料を通じて観覧したいと思います。

信州大学史資料センター

信州大学史資料センターは、信州大学の歴史を伝えるための資料を集め、展示・研究・教育に活用しています。信州大学史資料センターは、信州大学の歴史を伝えるための資料を集め、展示・研究・教育に活用しています。

信州大学史資料センター

信州大学史資料センターは、信州大学の歴史を伝えるための資料を集め、展示・研究・教育に活用しています。信州大学史資料センターは、信州大学の歴史を伝えるための資料を集め、展示・研究・教育に活用しています。

本格的なデジタルアーカイブズについては、その仕様も含め検討中である。デジタルアーカイブズのシステム構築の前提として、国立情報学研究所が機関リポジトリ用に開発した JAIRO Cloud の次世代版（研究データに対応）を活用したいと考えている。また、国際的なデジタルアーカイブズの規格「IIIF」等にも留意していきたい。

20170612

信州大学で公開されている大学所蔵資料のアーカイブズ（データベース）

- 1 中央図書館
 - (1) 近世日本山岳関係データベース（これ以外の小谷コレクションはPDF形式データ）
<http://www.moaej.shinshu-u.ac.jp/>
 - (2) 水野コレクション
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/find/mizuno-top.html>
 - (3) 松本女子師範学校郷土資料・多湖文書データベース（実験版）
<http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/eddb/>
- 2 繊維学部図書館
 - (1) 信州大学繊維学部デジタルアーカイブ
<http://fiber.shinshu-u.ac.jp/tex-da/>
- 3 信州大学自然科学館（理学部）
 - (1) 植物、動物・剥製、岩石、化石、化学分野の標本
PDF形式のデータ

参考：信州大学のコレクション

中央図書館：

- 小谷コレクション
- 石井鶴三コレクション
- 北杜夫文庫
- 旧制松本高等学校蔵書
- 絵画
- 水野コレクション
- 松本女子師範学校郷土資料・多湖文書

繊維学部図書館：

- 織物見本帳
- 生糸商標（輸出生糸・大正2年収集）
- 上田蚕糸専門学校の教材（教材、啓蒙資料、掛図、模型、すごろく）
- 上田蚕糸専門学校の歴史（記念絵葉書、初期の写真、上田蚕糸専門学校一覧、
 附属配置図、装束）
- 養蚕関係の図書・錦絵

各学部については情報収集中
 同窓会及び同窓生・教員の資料も収集中

資料3 公開されている大学所蔵資料のアーカイブズ

（４）調査研究

現時点で指摘できる若干の研究課題について述べておきたい。

＜年表＞

各学部等によって作成された年表データをエクセルデータとして集約した。今後の資料収集によってより豊かな年表として補充していくことになる。現在のところ作業途中である。

＜記念誌（各学部）＞

これまで各学部等が周年事業等として出版したものは以下のとおりである。学部単位のものは集約できるが、サークルや学生自治会などの活動を示す資料の収集については、今後の課題であ

る。

<p style="text-align: center;">信州大学の年史（誌）事業</p> <p>○全学</p> <ul style="list-style-type: none"> *『信州大学施設部設置20周年記念誌 案書会創立35年間の歩み』（信州大学施設部、1985年） *『新たな創造と交流を目指して—信州大学創立50周年記念誌』（信州大学、1999年） <p>○人文・経法</p> <p>○教養：</p> <ul style="list-style-type: none"> *『信州大学教養部十年史』（信州大学教養部、1977年） *『信州大学教養部二十年史』（信州大学教養部、1989年） *『信州大学教養部二十九年史』（信州大学教養部、1995年） <p>○教育：（除附属小中学校関係）</p> <ul style="list-style-type: none"> *『信州大学教育学部 九十年史』（信州大学教育学部創立九十周年記念会、1965年） *『字恋そして三十年 信州大学教育学部本校・松本分校・長野師範・長野青年師範一期生三十周年記念誌』（一期生三十周年記念誌委員会、1979年） *『信州大学教育学部三十年誌』（信州大学教育学部三十年誌刊行会、1982年） *『信州大学教育学部五十年誌』（信州大学教育学部五十年誌編纂部会、1999年） <p>○理学部：</p> <ul style="list-style-type: none"> *『信州大学理学部二十年史資料』（1986年） *『信州大学理学部創立50周年記念誌』（信州大学理学部創立50周年記念事業記念誌編纂委員会、2016年） <p>○医学部：</p> <ul style="list-style-type: none"> *『信州大学医学部二十五周年史』（信州大学医学部二十五周年記念会、1969年） *『信州大学医学部50年史』（信州大学医学部創立50周年記念事業実行委員会、1994年） ・『十年の歩み』（信州大学医学部附属衛生検査技師学校附属臨床検査技師学校閉校記念会、1976年） *『信州大学医療技術短期大学29年誌』（29年誌編纂委員会、2003年） <p>○工学部：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『機能高分子学科創立20周年・高分子工業研究施設創立30周年記念誌』（信州大学繊維学部機能高分子学科・高分子工業研究施設、1997年） *『信州大学工学部創立60年の歩み』（信州大学工学部創立60周年記念事業実行委員会、2010年） <p>○農学部：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『写真でつづる農学部60年史』（信州大学農学部60周年史記念事業実行委員会記念誌編纂委員会、2005年） <p>○繊維学部：</p> <ul style="list-style-type: none"> *『信州大学繊維学部創立70周年記念誌』（千曲会、1980年） ・『信州大学繊維学部繊維システム工学科創立七十五周年記念誌』（信州大学繊維学部繊維システム工学科創立七十五周年記念会、1994年） *『信州大学繊維学部創立100周年記念誌』（信州大学繊維学部内創立100周年記念誌編纂部会、2010年） ・『信州大学繊維学部同窓会設立100周年記念誌』（同窓会設立100周年記念誌編纂委員会、2015年）
--

資料4 信州大学の年史（誌）編纂事業

なお、こうした年史編纂に用いた写真や資料の所在確認と保存については、その一部について調査を始めたが、多くは今後の課題である。

＜資料所在情報の集約＞

本年度から、各学部あて資料調査への情報提供のお願いを行い、一部について大学文書も含めた情報が集まってきた（表1参照）、全学について系統的、網羅的な調査は今後の課題である。

＜キャンパス敷地及び歴史的建造物、遺構の調査＞

大学史に関する資料を収集することと、大学の歴史に関する研究は車の両輪である。どのような資料を集めるのか、現状集まっている資料以外にどのような資料が存在しているのかなど、調査研究は重要な位置を占める。

ここでは、大学の立地する地域の歴史との関係を考える上で、大学の敷地としての歴史に注目したい。

たとえば松本キャンパスは、その敷地は戦前の陸軍歩兵第五十連隊や松本衛戍病院（松本陸軍病院、戦後に国立松本病院）、長野県蚕業試験場、長野県蚕業取締所、長野県女子師範学校などとして存在した。とりわけ歩兵第五十連隊はその中心的施設で、現在のキャンパス内にその遺構をみることができる。現在は医学部資料室として使われている明治末年の建築になる「旧陸軍歩兵第五十連隊糧秣庫」は国の登録有形文化財に登録されている。

このほか、長野キャンパスの教育学部書庫（赤レンガ館）は明治 28 年建築の旧長野県庁書籍庫であり、上田キャンパスの繊維学部資料館は明治 44 年建築の旧上田蚕糸専門学校貯繭庫で、いずれも煉瓦造で国の登録有形文化財である。このほかにも、上田キャンパスの繊維学部講堂、繊維学部警務員室や、長野キャンパスの工学部武道場など貴重な建造物が残されている。ただ、平成 6 年まで所在した「旧陸軍歩兵第五十連隊包厨所」はグラウンド拡張のために解体されたことは非常に残念である。

今年度新たに、医学部の部室として使われている煉瓦造の建物について、工学部建築学科による調査を始めることにした。おそらく「旧陸軍歩兵第五十連隊魚菜庫」であった可能性がある。また、松本キャンパス内では「陸軍用地」と彫られた石柱が見つかった。旧五十連隊関係など、信州大学開学以前の遺構でまだ認識されていないものがないのかなど、今後の調査が必要である。



写真 1 「陸軍用地」と彫られた石柱

<「信州大学」の名称について>

昭和 24 年、全国 69 の新制大学の一つとして「信州大学」がスタートした。ここで、信州大学が新制大学のなかで唯一旧国名を冠したものであることがこれまでも注目されてきた。では、昭和 24 年当時、大学名に「信州」を冠する事に異論は無かったのか。実は、この点について信州大学が開学した当初の教育学部本校・松本分校、長野師範学校、長野青年師範学校の第一期生が入学 30 周年を記念して編集発行した『学窓 そして三十年（信州大学教育学部本校・松本分校、

長野師範学校、長野青年師範学校一期生三十周年記念誌』(同誌刊行委員会刊 昭和54年)が詳しく解明している。

それによると、信州大学設立の動きはすでに明治30年代の高等学校設置運動の中に胚胎していて、「信州大学」の名も、その使用は明治30年代にまでさかのぼること、大正8年の松本高等学校開学を契機に「信州大学」設置への運動が高まり、以後昭和戦前期まで一貫して「信州大学」の名でその設置への動きが続いていたことも明らかにしている。

昭和24年に開学した信州大学は、こうした長年にわたる運動のなかで誕生したと言え、したがって「信州」の名を冠することは言わば自明のことであったということができる。

なお、「長野」大学ではなく「信州」大学が明治以来、大学名の候補であった点については、すぐれて現代的な課題でもある「長野」と「信州」をめぐる地域意識の問題がある。信州大学の大学史の研究は、こうした地域史研究の課題とも結びついていることを忘れてはならないだろう。

(5) 記念事業に向けて

平成31年6月1日は、信州大学の創立70周年を迎える日で、その日に松本市民芸術館を会場に「信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業」が行われる予定である。

そのなかで大学史資料センターは、「信州大学前史【旧制松本高等学校から信州大学文理学部へ】及び最近の取り組み」に関する映像制作や、旧制松本高等学校及び信州大学に関わる資料の展示会(実物展示、映像展示)を実施することになっている。今年度から来年度に向けて、映像シナリオや展示プランの策定を進める予定である。

おわりに―課題と展望

先にふれたように、本学の大学史資料センターは現状では、1)公文書館型、2)年史編纂型、3)創立者・創立経緯重視型、4)同窓会対応型の4つに類型のうち、敢えて言えば2)年史編纂型に属すであろう。この場合、「年史編纂」が果たされると事業は廃止ないし休止とされる例も多い。しかし、本学の蓄積してきた様々な歴史資料(大学文書を含む)を大学全体として保管し、後世に伝えていくためには、継続的な活動がなされる必要がある。大学史資料センターのあり方については、年史記念事業が実施される平成31年度に総括を踏まえた形で中長期の計画を策定することになるだろうが、ここでは、現時点で考えられる点について若干の考察を行っておきたいと思う。

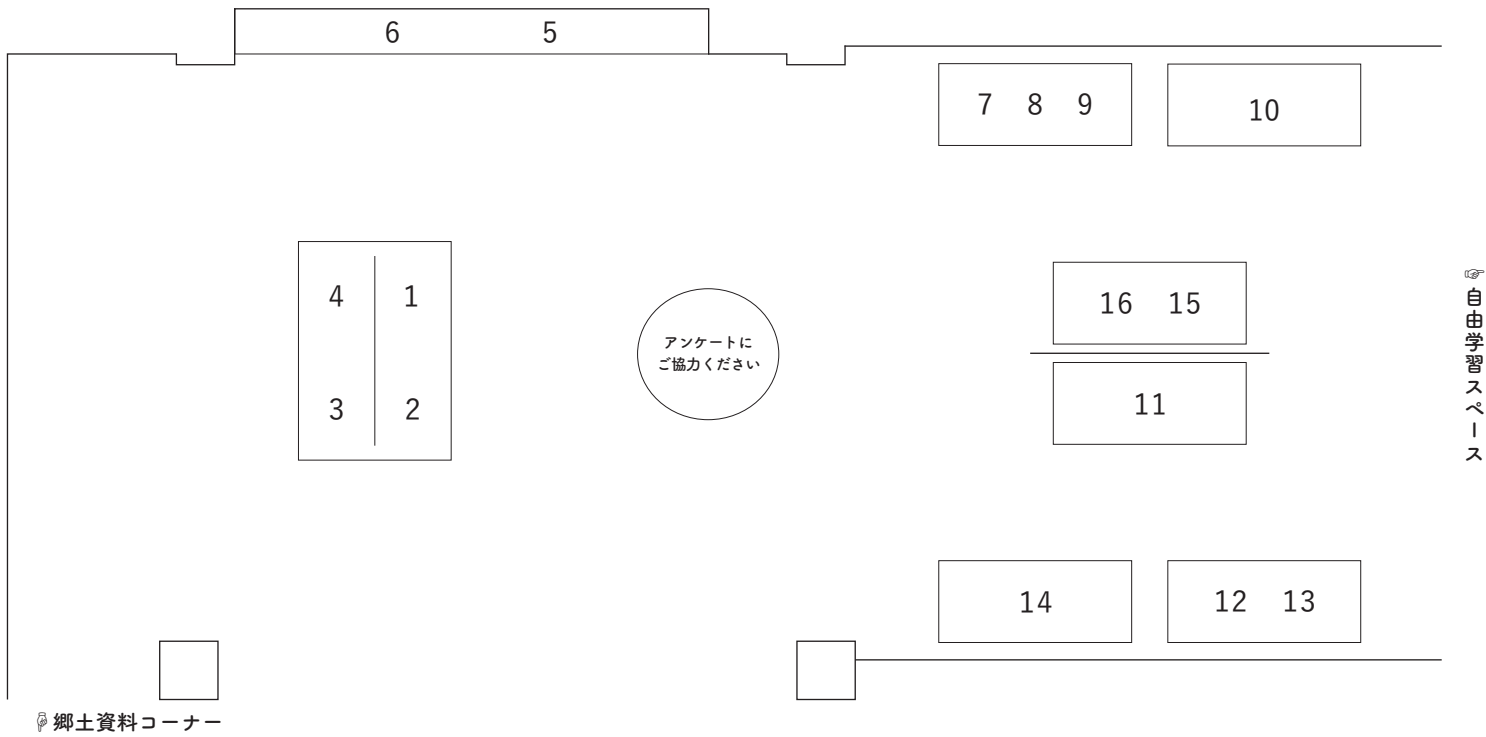
信州大学はその設立の経緯もあり、8つの学部が5つのキャンパスに分散する、いわゆるタコ足大学である。さまざまな活動がそれぞれの学部の自主性、独立性のもとで行われてきた点こそが信州大学の特色を形作ってきたといえる。したがって、さまざまな歴史資料等についても各学部ごとに管理するという形をとってきた。今年度から発足した大学史資料センターも、この原則

のもとに活動を進めている。ただ、今後は資料の性格を考え、一定の保存環境のもとで管理すべきものは無いかなどについて検討が必要だと思われる。そのためには、大学の中長期の計画の中に大学アーカイブズのあり方を位置づけることが必要と思われる。

たとえば、現在の大学史資料センターの主たる使命は、卒業生や教職員 OB などの持っている大学関係資料の収集、各部局の持っている歴史資料の把握、データ化など、主として「収集アーカイブズ」（教科書、講義ノート、卒業証書、学生証、サークル活動資料、学生生活の写真、各種名簿・・・など）に属する業務を推進することである。

しかし、「公文書等の管理に関する法律」（平成 21 年 法律 66 号）が平成 23 年に施行され、そのなかで「独立行政法人等」の法人文書に由来する文書は、「特定歴史公文書等」として法律のとおり管理することになっており、本学における「機関アーカイブズ」、すなわち法人文書のアーカイブをいかに進めるか、そのために「国立公文書館等」への指定を目指すのかどうかなどが検討課題となっている。ただ各部局が所蔵する文書の中には、すでに保存期限が切れたものがあることから、それをどう扱うかは現実の問題として考える必要があると思われる。また、法人文書以外の大学発行資料（大学要覧、入学案内、規程集、職員録、シラバス、研究報告雑誌、広報誌等）の系統的収集や、教育資源・研究資源のアーカイブズ化など、体系的かつ系統的に検討する課題が残されている。

来る 2049 年、信州大学は開学 100 周年の節目を迎えることになる。大学史資料センターの当面の目標は 70 周年記念事業であるが、センターの活動を通じて、「信州大学 100 周年事業」、すなわち大学全体の年史刊行への展望を持ちたいと思う。そのためには、身近な資料をこつこつと集める「収集アーカイブズ」の仕事と、大学の存在そのものをアーカイブする「機関アーカイブズ」を両輪とする信州大学アーカイブズへの発展を展望したいと思う。



no.	展示品名	年代	所蔵先
1	信州大学創設関係資料	昭和18年(1943)～昭和25年(1950)	大学本部
2	松本医科大学長依頼文「信州大学設置事務局に関する件」	昭和23年(1948)4月7日	大学本部
3	文部省学校教育局長通知「新制国立大学設置について」	昭和24年(1949)5月31日	大学本部
4	開學記念寫眞集	昭和25年(1950)	中央図書館
5	凛	平成6年(1994)	医学部
6	信濃國	大正6年(1917)	教育学部
7	落成記念寫眞帖	大正11年(1922)10月	中央図書館
8	記念帖 大正十四年三月卒業文科甲組	大正14年(1925)3月	中央図書館
9	思誠寮日誌	昭和24年(1949)	人文学部
10	官舎之記	昭和22年(1947)1月5日	医学部
11	安西流馬医巻物	宝永7年(1710)	農学部図書館
12	長野県師範学校校友会蔵書	明治初期	教育学部図書館
13	藩文庫	江戸後期～明治初期	教育学部図書館
14	信州大学工学部設置申請書	昭和23年(1948)	工学部
15	出納帳	明治43年(1910)～昭和28年(1953)	繊維学部
16	開校式記念繪葉書	大正2年(1913)	繊維学部

展覧会関連企画

昼どきセミナー：会場◆中央図書館1階自由学習スペース
時間◆12:20～12:50

① 2018年5月8日(火)「信州大学誕生」

講師◆福島 正樹(大学史資料センター特任教授)

② 2018年5月11日(金)「松高生の青春日記」

講師◆渡邊 匡一(大学史資料センター長、人文学部教授)

ギャラリートーク：センター職員による展覧会解説を行います。
展示会場にお集まりください。

〔前期〕2/28(水)、3/7(水)、3/14(水)

◎いずれも12:20～12:40

◎後期の日程は追っておしらせします。

みなさん、はじめまして。
本展を企画した"信州大学大学史資料センター"です。
当センターは2019年に本学が70周年を迎えるにあたって、
2017年4月に大学附属図書館のもとに設置された新しい組織です。
本展示でもご覧いただいたように本学は100年以上に渡る長い歴史を有しています。
しかし、この歴史を明らかにする重要な資料が現在散逸の危機にあります。
そこで当センターは、各学部その同窓会・校友会などと連携し、資料の収集・整理・保存をすすめ、公開・展示等を行い、本学の歴史を将来に伝える役割を担っています。今後はそれらをデジタル化し、インターネット上で公開することも予定しています。このように、資料の面から信州大学の歴史を守っています。みなさまからの情報提供もお待ちしております。
どうぞよろしくお願いいたします！



特任教授 福島正樹先生

大学史資料センターとは？

～ 信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業プレイベント～



信州大学設立時の行政文書
昭和24(1949)年 大学本部蔵

信州大学は、戦前に設立された前身校の伝統を引き継ぎ、1949年6月1日に開学しました。本展では、創立当初の姿がわかる資料や写真を展示し、現在までの大学の移り変わりなども紹介します。



開学記念写真 昭和25(1950)年 中央図書館蔵

□ 前期 □ 2018年2月22日(木)～3月19日(月)
[2/25(日)、3/12(月)は休館]
月-金 8:45～17:00, 土日祝 10:00～17:00

□ 後期 □ 2018年4月26日(木)～5月14日(月)
[休館なし]
月-金 8:45～22:00, 土日祝 10:00～19:00

□ 場所 □ 信州大学中央図書館 1階展示コーナー
(松本キャンパス 松本市旭3-1-1)



信州大学設立時の行政文書
昭和23・24年 大学本部蔵



センターWEBページ

主催：信州大学附属図書館 信州大学大学史資料センター

お問い合わせ先(平日 9:00-17:00) ▶ 信州大学附属図書館中央図書館 〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号 TEL 0263-37-2207 FAX 0263-37-3532 E-mail archives@shinshu-u.ac.jp

「信州大学今昔」展示趣旨

信州大学は、戦前に設立された前身校7校の伝統を引き継ぎ、1949年に発足しました。来る2019年は信州大学設立70周年の年になり、同時にこの年は旧制松本高等学校の100周年にもあたっています。本展は大学史資料センターによる第1回の企画展として、信州大学の成り立ちを、各学部が所蔵する特色ある資料を通じて概観したいと思います。

信州大学とは
松本キャンパス

昭和24年(1949)6月1日、松本高等学校・松本医科大学・長野師範学校・長野青年師範学校・長野工業専門学校・県立農林専門学校・上田繊維専門学校を母体として、信州大学が誕生しました。本展示では、信州大学の創設に関する資料をはじめ、5つのキャンパスごとに、8つの学部の「沿革」と貴重な「逸品」をご紹介します、信州大学の「昔」から「今」までの歩みをご覧くださいます。

3 文部省学校教育局長通知「新制国立大学設置について」 昭和24年(1949)5月31日 大学本部 蔵

昭和23年(1948)7月30日付で申請していた信州大学設置について、大学設置委員会(文部省)からの答申内容を伝達したもの。昭和24年度より、松本市大字桐109の地に本部を置き、6学部13学科編成で開設する旨が通知された。また、設置条件として、校舎・施設の拡充整備、教員(特に数学)の充実などが指摘されている。



信州大学
創設に関する
逸品

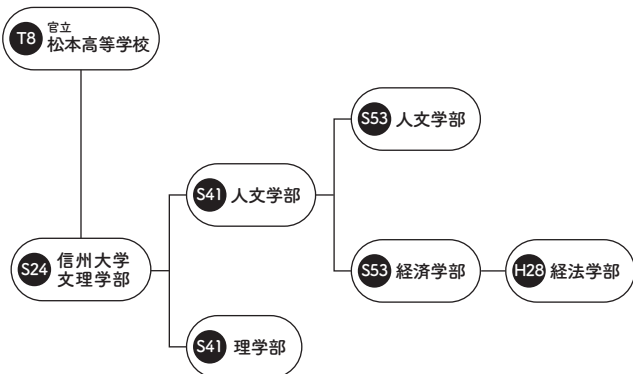
現在、松本キャンパスには、医学部・人文学部・経法学部・理学部があります。この地には、旧陸軍歩兵第五十連隊が置かれていました。昭和19年(1944)、松本医学専門学校が設置され、戦後に連隊跡地に移転しました。その後、松本医科大学を経て、昭和24年(1949)の信州大学設立時に医学部となりました。あがたの森にあった旧制松本高等学校は、信州大学設立時に文理学部となりました。文理学部はあがたの森をキャンパスとし、人文学部と理学部に改組されたのち、現在地に移転しました。昭和53年(1978)、人文学部経済学科は経済学部(現・経法学部)となり、現在に至ります。

人文学部 FACULTY OF ARTS

経法学部 FACULTY OF ECONOMICS AND LAW

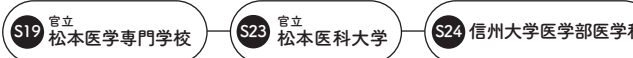
理学部 FACULTY OF SCIENCE

人文、経法、理学部 沿革

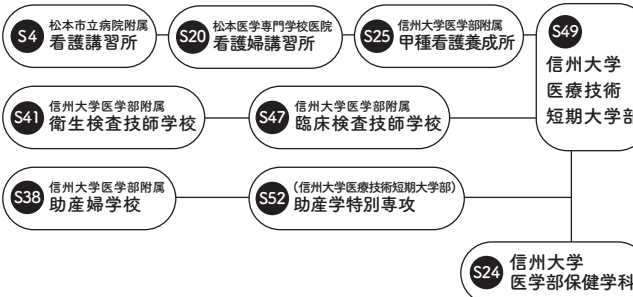


医学部 SCHOOL OF MEDICINE

医学科 沿革



保健学科 沿革



7 落成記念写真帖 大正11年(1922)10月 中央図書館 蔵

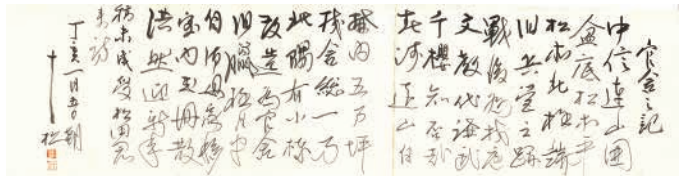
大正11年(1922)、旧制松本高等学校の校舎落成を記念して作られた写真アルバム。巻頭には、松本中学校(現:松本深志高等学校)の校舎を間借りしていた開校当初からの念願であった校舎新築への喜びが記されている。1枚目には「日本アルプス」の写真が収められており、信州全体をキャンパスとみなしていたことがうかがえる。



文・経・理
これ
逸品

10 官舎之記 昭和22年(1947)1月5日 医学部 蔵

信州大学の設立に尽力し、初代医学部長をつとめた竹内松次郎(雅号:十松)直筆の書。医学部の前身である松本医学専門学校の初代校長として招かれ、構内に存在した官舎(校長宿舍)への入居に際して詠んだ漢詩。旧陸軍歩兵第五十連隊の駐屯地であった頃より有名な桜の様子とともに、無事に入居の済んだ安堵感を詠んでいる。



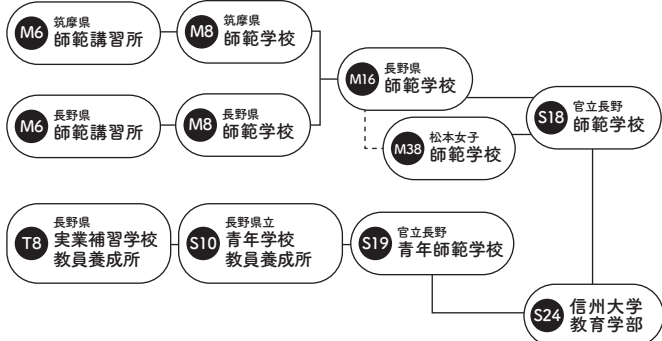
医学部
これ
逸品

長野(教育)キャンパス

現在、長野(教育)キャンパスには教育学部があります。この地には、明治41年(1908)まで、「長野県庁」と「長野県師範学校」が隣接していました。同年5月～6月、立て続けに起こった火災によりいずれも焼失し、師範学校は再建されましたが、県庁は移転することとなります。その後、師範学校は昭和24年(1949)の信州大学設立時に「教育学部」となり、現在に至ります。

教育学部 FACULTY OF EDUCATION

教育学部 沿革



12 長野県師範学校学友会蔵書 明治初期 教育学部図書館 蔵



長野県師範学校から教育学部へと引き継がれた約18,000冊のうち、「学友会」が収集したもの。学生自らが資金を出し合って購入したこれらの書籍には、「長野県師範学校学友会図書部蔵書印」などの蔵書印がみられ、一部が赤く塗られているのが特徴。教育学をはじめ、言語・歴史・地理・哲学・美術など、幅広い書籍がある。約1,000冊。

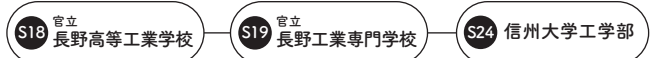
教育学部
これ
逸品

長野(工学)キャンパス

現在、長野(工学)キャンパスには工学部があります。かつてこの地には、「長野工業試験場」がありました。昭和19年(1944)、試験場の移転に伴い、長野市岡田にあった「長野高等工業学校」(昭和18年設立)は、「長野工業専門学校」に改組・移転し、試験場建物を校舎としました。その後、工業専門学校は昭和24年(1949)の信州大学設立時に「工学部」となり、現在に至ります。

工学部 FACULTY OF ENGINEERING

工学部 沿革



14 信州大学工学部設置申請書 昭和23年(1948) 工学部 蔵



信州大学工学部の新設時に作成された文書一式。設置要綱や学則、校地の図面をはじめ、講座の構成や履修方法等、現在の工学部の礎となる規範が記されている。特に設置要綱からは、「工業に関する地方的学術の中心」として、信州の地域特性をふまえて社会の発展に寄与する自負がうかがえる。

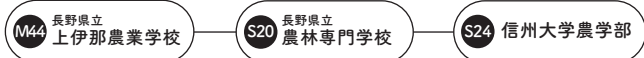
工学部
これ
逸品

伊那キャンパス

現在、伊那キャンパスには農学部があります。農学部の前身である「長野県立農林専門学校」は、昭和20年(1945)、「上伊那農業学校」(現・上伊那農業高等学校)に併設されました。上伊那農業学校の寮の隣接地に建てられた農林専門学校は、昭和22年(1947)、現在農学部がある地へと移転します。その後、昭和24年(1949)の信州大学設立時に「農学部」となり、現在に至ります。

農学部 FACULTY OF AGRICULTURE

農学部 沿革



11 安西流馬医巻物 宝永7年(1710) 農学部図書館 蔵

仏教と陰陽五行説を基本思想とした馬医学書。天正7年(1579)、馬医学に通じた故実家の安西播磨守によって著されたものの写本。入門者のために、馬体解剖図、季節による馬の病氣、針治療法、馬医学修得の心構えなどが記されている。昭和49年(1974)、駒ヶ根市の笹古家から信州大学農学部へ寄贈された。

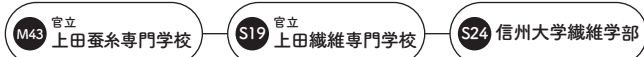


農学部
これ
逸品

現在、上田キャンパスには繊維学部があります。明治43年(1910)、この地に官立の「上田蚕糸専門学校」が設立されました。元々蚕糸業が盛んな土地であることや、地域の誘致活動により、上田の地が選ばれました。その後、昭和19年(1944)に「上田繊維専門学校」と改称し、昭和24年(1949)の信州大学設立時に「繊維学部」となり、現在に至ります。

繊維学部 FACULTY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY

繊維学部 沿革



16 開校式記念繪葉書 大正2年(1913) 繊維学部 蔵

上田蚕糸専門学校(繊維学部の前身)の開校式を記念して作られた絵葉書。上の絵葉書では、手前に桑畑が広がる様子と、中央には製糸工場の煙突が描かれ、養蚕や製糸に関する実習を行っていた開校当時の様子がうかがえる。右端には、現在も繊維学部資料館として活用されている貯蔵庫(登録有形文化財)が描かれている。



繊維学部
これ
逸品

信州大学のこれから

本展示では、信州大学の「今」と「昔」を紹介してきました。これからも、学生や教職員はもちろん、卒業生や保護者の皆様、地域の皆様、信州大学を応援してくださる多くの方々と共に、信州大学の歴史を作り上げて行きます。

No.	名 称	年 代	所 蔵
1	筑摩県師範講習所 明治7年・8年申達書類	明治7年(1874)～明治8年	教育学部
2	村松民次郎「本県教育の精神と信州大学」	大正4年(1915)	中央図書館
3	三圭会関係書類綴	昭和24年(1949)	工学部
4	実業教育大学所要建物調	昭和22年(1947)～23年頃	教育学部
5	大学設置認可申請書(県立農科大学)	昭和23年(1948)5月	大学史資料センター
6	上田繊維大学設置認可申請書	昭和23年(1948)	大学史資料センター
7	長野県高専校長会議覚書	昭和23年(1948)4月	大学史資料センター
8	信州大学創設関係資料	昭和18年(1943)～昭和26年	大学史資料センター
9	随筆 竹内松次郎「信州大学の構想」	昭和24年(1949)5月	大学史資料センター
36	信州大学工学部設置申請書	昭和23年(1948)7月	工学部
11	文部省学校教育教育局長通知「新制国立大学設置について」	昭和24年(1949)5月31日	大学史資料センター
12	国立信州大学案内(昭和二十四年度)	昭和23年度	教育学部
13	昭和二十四年度信州大学入学志願者募集要項	昭和23年度	教育学部
14	昭和二十四年入学志願者募集要項 理科地学	昭和24年(1949)6月	教育学部
15	昭和二十四年入学志願者募集要項 理科学部	昭和24年(1949)6月	教育学部
16	昭和二十四年入学志願者募集要項 理科学部	昭和26年(1951)	大学史資料センター
17	昭和二十四年入学志願者募集要項 理科学部	昭和26年(1951)	大学史資料センター
18	昭和二十四年入学志願者募集要項 理科学部	昭和26年(1951)	大学史資料センター
19	昭和二十四年入学志願者募集要項 理科学部	昭和26年(1951)	大学史資料センター
20	昭和二十四年入学志願者募集要項 理科学部	昭和43年(1968)3月20日	大学史資料センター
21	昭和二十四年入学志願者募集要項 理科学部	昭和24年(1949)頃	人文学部
22	昭和二十四年入学志願者募集要項 理科学部	昭和25年(1950)10月	大学史資料センター
23	昭和二十四年入学志願者募集要項 理科学部	昭和25年(1950)10月	大学史資料センター

贈れる伝統、文化を未来へ。
Shinshu University
70th
Matsumoto Higher School
100th
Anniversary

信州大学創立70周年
1873-2019

信大
NOW
Special Edition

信州大学歴史探訪マップ 1873-2019

Shinshu University Historical Walking Map

信州の地に期待を担って誕生した信州大学…その建物やキャンパスの景観は、
前身校の時代から地域とともに歩む中で、地域のシンボルともなりました。
これらは時代の象徴であり、地域の大切な歴史資産でもあります。
当時の情景に想いを馳せながら、キャンパスの歴史を振り返ってみましょう。



信州大学
SHINSHU UNIVERSITY

日本で唯一、旧国名を冠した国立大学

「信州大学」は、1949(昭和24)年、長野県下の高等教育機関7校を母体として設立されました。「信州」は、旧国名「信濃国」の略称です。長野県をひとつに束ねる言葉として県民にとって馴染み深く、明治期の大学誘致運動の中で、既に案として挙がっていました。新制国立大学の多くが県名を大学名にする中、信州大学は日本で唯一、旧国名を冠した国立大学として誕生したのです。



長野県師範学校(写真は明治11年頃)



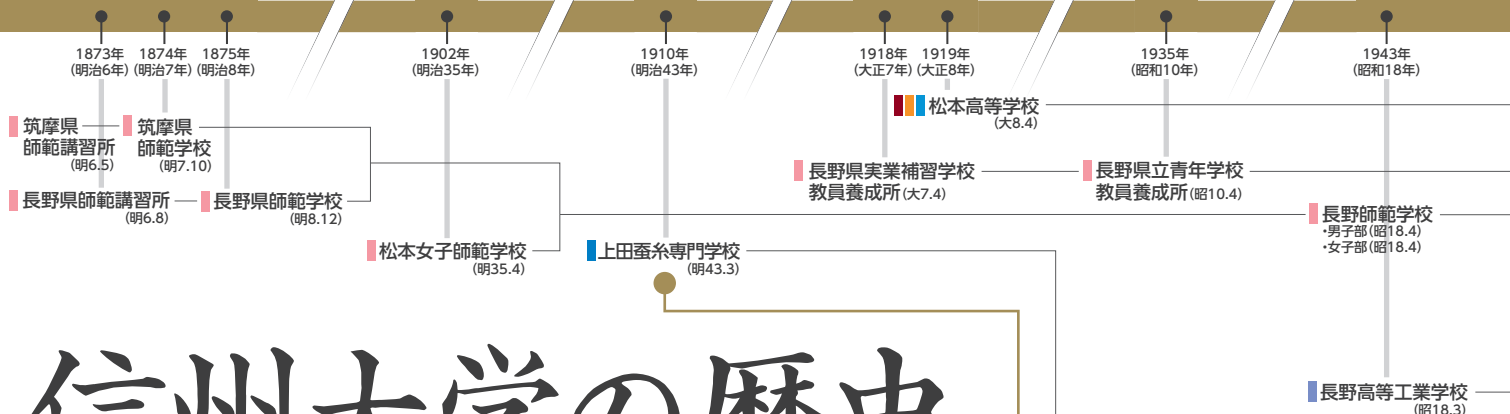
松本女子師範学校(写真は大正初期)



松本高等学校(写真は大正11年頃)



長野青年師範学校



信州大学の歴史

建物に見る、学部と前身校

教育学部

長野(教育)キャンパスと前身校

1873(明治6)年、当時の旧長野県と筑摩県にそれぞれ師範講習所が設けられ、翌年、筑摩県師範学校、翌々年、長野県師範学校(後に長野師範学校に改称)となり、県統合に伴って筑摩県師範学校は長野県師範学校松本支校になりました。教育県としての長い歴史を受け継ぐ教育学部は、県内外に多くの教育者を送り出しています。

教育学部



工学部

長野(工学)キャンパスと前身校

1943(昭和18)年、第二次世界大戦下における工業技術者確保のため、長野高等工業学校が設立され、翌年、長野工業専門学校となりました。信州大学発足にあたり、工学部は再生日本の産業立国への寄与と長野県産業への人材供給を目的として設立され、現在は、科学技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献する人材を育成しています。

工学部



長野工業専門学校(写真は昭和19年)

人文学部・経法学部・理学部・医学部・ 全学教育機構… 松本キャンパスと前身校

1919(大正8)年に設置された松本高等学校は、人文学部・経法学部・理学部の前身校です。1949(昭和24)年、信州大学の文理学部として発足しますが、1966(昭和41)年には人文学部と理学部に分離します。1978(昭和53)年、人文学部から経済学部が独立し、2016(平成28)年には経済学部は経法学部となりました。松本高等学校の伝統を引き継ぎつつ、各学部が独自の理念で教育・研究を展開しています。

1944(昭和19)年、第二次世界大戦下における医師不足を補うため、松本医学専門学校が設置され、1948(昭和23)年、松本医科大学となりました。1949(昭和24)年、信州大学医学部が発足。1951(昭和26)年には医学部医学科となります。「松本の地において国際的レベルの医学知識を学び、世界に通用する医療技術を身に付ける」ための教育と、先端的な医療・研究を展開しています。

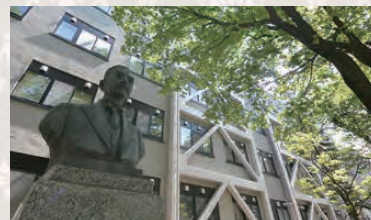
1974(昭和49)年、1929(昭和4)年設立の松本市立病院附属看護講習所以来の諸学校の系譜を引く医療技術短期大学が併設され、2002(平成14)年に医学部保健学科となります。「人」に深い関心と思いやりの心を持つ、高度な保健・医療分野の専門職を育成しています。

1966(昭和41)年、教養教育の充実のために教養部が設置されました。その伝統は2006(平成18)年発足の全学教育機構に引き継がれ、全学部の教養教育を担っています。

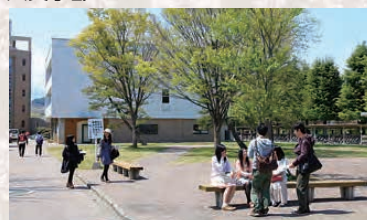


松本医科大学

医学部



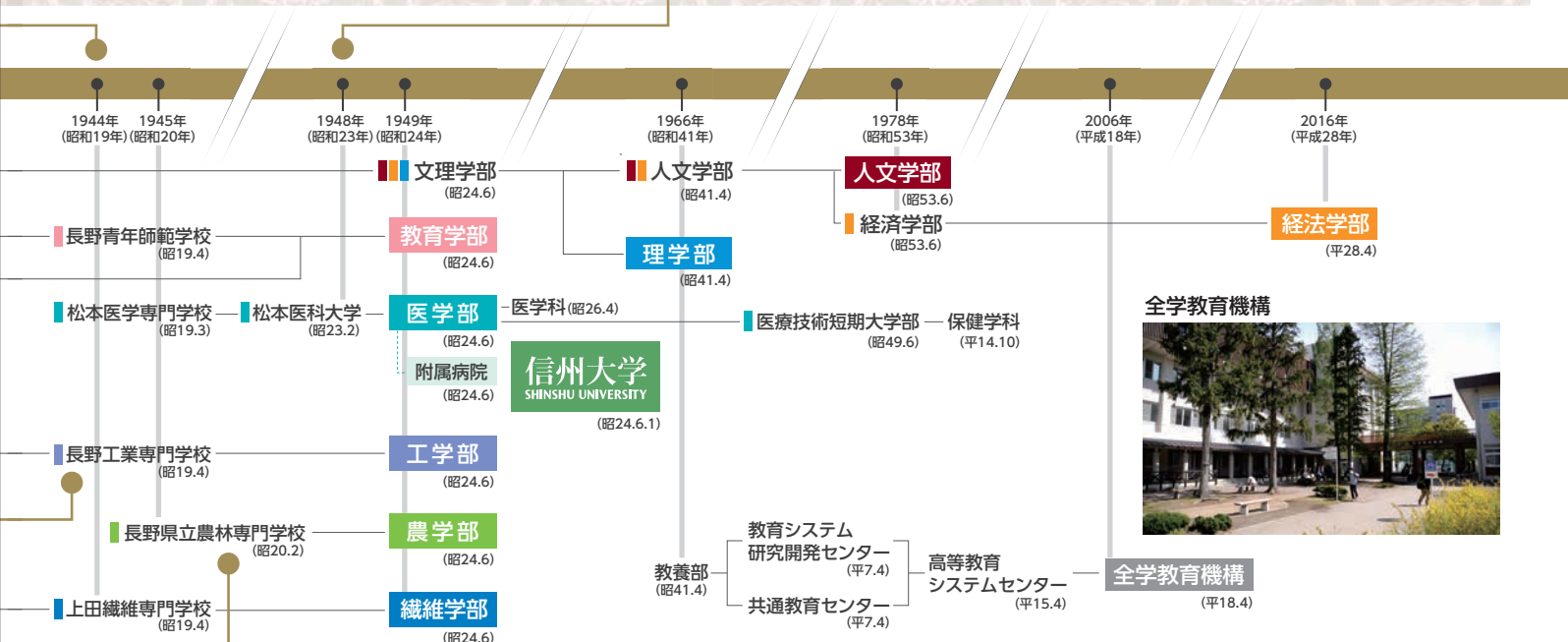
人文学部



理学部



経法学部



長野県立農林専門学校

農学部 伊那キャンパスと前身校

1945(昭和20)年、第二次世界大戦下における農産体制増強のため、長野県立農林専門学校が設立されました。キャンパス内に演習林を持つほどの、広大で恵まれた自然環境のもと、日本の生命・食料・環境を支える教育・研究に取り組み、農と食にまつわる産業を豊かにする卒業生を輩出しています。

農学部



上田蚕糸専門学校(写真は大正2年)

繊維学部 上田キャンパスと前身校

1910(明治43)年、蚕糸に関する最初の国立高等教育機関として上田蚕糸専門学校が設立され、1944(昭和19)年に上田繊維専門学校となりました。繊維学部は日本で唯一、本学だけにしかないユニークな学部で、伝統的な科学技術を基盤に、先端科学技術の展開を図り、さらにはそれらを支える人材を育成しています。

繊維学部



松本キャンパス周辺史跡巡り

松本キャンパス

法人本部、人文学部、経法学部
理学部、医学部、全学教育機構

松本市旭3丁目1番1号

松本歩兵第五十連隊駐屯地跡
松本医学専門学校、松本医科大学の校地



ニュートンのりんごの木



教育学部附属松本小学校和行堂
旧松本女子師範学校和行堂

旧松本女子師範学校の正門門柱

正門跡

旧松本歩兵五十連隊正門
の場所を引き継ぎ、昭和
46年まで機能した



ヒポクラテスの木
プラタナスの大木



信州大学自然科学館



医学部資料室

旧松本歩兵第五十連隊糧秣庫



医学部倉庫

松本歩兵第五十連隊ゆかり
のレンガ造り倉庫



初代医学部長
竹内松次郎像



ケヤキ並木
旧メインストリート
沿いに植えられた
ケヤキ

松本キャンパスは旧陸軍の
駐屯地でした。キャンパス内
には当時の建物が残されて
います。「学部」で「軍部」でも
あった松本には、それを示す
多彩な史跡が数多く残され
ています。



射撃場橋

橋より西側の一帯が
射撃場で、連隊が射撃
訓練を行った



旧五十連隊の碑
旧連隊関係者が
1958年に建立
したもの

信州大学教育学部 附属松本小・中学校、幼稚園

松本女子師範学校、長野師範学校
(女子部)、信州大学教育学部松本
分校の校地だった

旧開智学校校舎

松本市立開智小学校
松本市立病院跡、松本医学専門学
校・松本医科大学・信州大学医学
部の附属病院跡

松本城

旧制松本中学校校舎跡、旧制松本
高等学校校舎跡

松本深志高等学校
旧制松本中学校
松本医学専門学校校舎
があった

信州大学 松本キャンパス

グリーンフィールド
長野県蚕糸試験場、講習所跡

日本銀行松本支店

長野県師範学校松
本本校・支校跡

あがたの森公園・ あがたの森文化会館

松本キャンパスへの移転後、校舎と敷
地は市の公民館、公園となる



旧制松本高等学校講堂

信州大学文学部・人文・理学部旧校舎



旧制松本高等学校本館

信州大学文学部・人文・理学部旧校舎



ヒマラヤ杉

第2代校長大渡忠太郎により
植樹された



「われらの青春ここにありき」碑
旧制松本高等学校の記念として
1968年に建てられた

重要文化財 旧開智学校跡の碑

1964年に現在地に移築された

源智の井戸

近くの宮村に筑摩県師範
講習所が置かれた

- 国 国宝
- 重 国重要文化財
- 有 国登録有形文化財
- 県 県・市指定文化財

幼・小・中・高校の敷地内および私有地
内への立入りにつきましては、事前に関
係先の許諾が必要な場合があります。

長野 (教育・工学) キャンパス周辺史跡巡り

長野(教育)キャンパス

教育学部

長野市西長野6の口

旧長野県庁跡
長野県尋常師範学校、長野県師範学校(男子部)の校地
および教育学部附属長野小・中・養護学校旧校地
(教育学部附属長野小・中・特別支援学校は長野市南堀に移転)



「勝雲山先生彰徳碑」
「努力は天才に勝る」雲山書

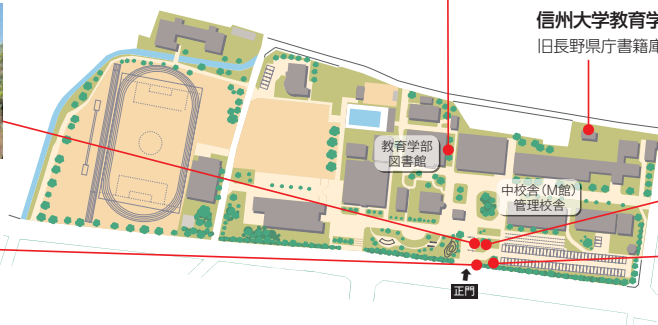


信州大学教育学部同窓会 赤煉瓦館
旧長野県庁書庫

「浅井先生頌徳之碑」
「信濃国」作者
長野県尋常師範学校教諭
浅井列の頌徳碑



「正木先生碑銘」
第五代長野県尋常師範
学校校長 正木直太郎の
頌徳碑



「浅岡先生頌徳碑」
第四代長野県尋常
師範学校校長 浅岡一
の頌徳碑



「能勢先生之碑」
第二代長野県師範
学校校長 能勢米の
頌徳碑



旧長野県師範学校教師館
(長野市上ヶ屋麓原)
長野市立図書館の地にあった長野
県師範学校の教師館が移築されて
いる

善光寺
長野県師範講習所
が置かれた

信州大学
長野(教育)キャンパス

長野市立図書館

長野県師範学校、長野県尋常師範学校跡

長野県庁

1913年に西長野より現在地に移転した



長野バスターミナル

長野県長野工業高等学校跡碑
旧長野県工業学校に長野高等
工業学校が置かれた



姫塚・榊の木

熊谷直実の伝説がある姫塚の杜は
かつて学生の憩いの場所であった



教育学部附属長野小・中・特別支援学校
(長野市南堀)

信濃教育会館・
信濃教育博物館

教育学部附属
長野中学校北門
(長野市南堀)

旧県庁正門の門柱
が北門として利用
されている



若里公園・県立長野図書館

長野県農業試験場・農業大学校跡碑
かつて長野県実業補習学校教員養成
所があった
後に長野市吉田に移転し、長野県立青
年学校教員養成所、長野青年師範学校
を経て信州大学教育学部吉田分校と
なった

長野(工学)キャンパス

工学部

長野市若里4丁目17番1号

長野県工業試験場跡
長野工業専門学校の校地



武道場

旧長野県工業試験場の施設建物



正門
2016年竣工



グラウンドと周囲のポプラの木

伊那キャンパス周辺史跡巡り

伊那キャンパス

農学部

上伊那郡南箕輪村8304
長野県立農林専門学校の校地



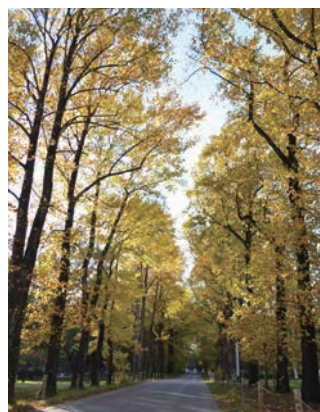
食と緑の科学資料館「ゆりの木」
生産品販売所が併設されている



カラマツ並木

ゆりの木並木

正門より続く農学部
のシンボル
1954年と1957年
に植えられた



芋ノ田の横井戸 横井戸出口
明治の頃に掘削され約720mの地下水路
構内の農場の灌漑用水に利用されている



水神碑



開拓記念碑・芋田開墾碑
1903年に建てられ、水路開発と耕地などを
開墾した経緯が記される



放牧場



正門
初代門柱(1952年)の礎と銅版プ
レートを利用して2014年再建さ
れた



馬頭観世音
1938年につくられ、旧集
落の入口に置かれる



村上明彦先生顕彰碑
初代農林専門学校長と上伊那農業
学校長を兼任した

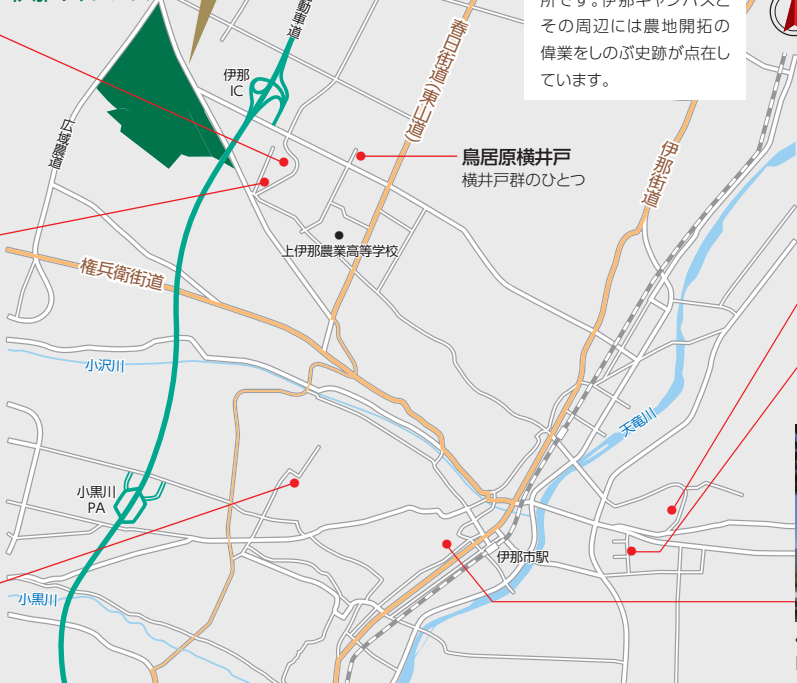


中ノ原農場(上農寮村上記念農場)
上伊那農業高等学校の農場



御子柴三郎の井
伊那谷の代表的な横井戸のひとつ

信州大学 伊那キャンパス



伊那谷はアルプスと天竜川
に囲まれた農林業が盛んな
所です。伊那キャンパスと
その周辺には農地開拓の
偉業をしのぶ史跡が点在し
ています。

鳥居原横井戸
横井戸群のひとつ



伊那商業学校建立跡記念碑
農林専門学校の仮校舎

**上伊那農業高等学校定時制跡・
伊那警察署**
上伊那農業学校時代に農林専門学
校が置かれた



伊那市創造館
旧上伊那図書館

上田キャンパス周辺史跡巡り

上田キャンパス

繊維学部

上田市常田3丁目15番1号
上田蚕糸専門学校、上田繊維専門学校の校地



警務員室 有
門衛詰所(守衛所)



書庫
旧アイソトープ実験棟、かつては研究室も入っていた



キャンパス内の果樹
針塚初代校長が、親元を離れた生徒が食べるものに困らぬように植えたと伝わる



繊維学部資料館 有
旧貯蔵庫
蚕糸専門学校設立当初からあり、上田キャンパスでは最も古い建造物



校名碑
80周年の記念に上田蚕糸専門学校の卒業生から寄贈されたもの



桜並木
かつて存在し、学生の憩いの場であった
100周年記念事業として再び桜が植樹された



ヒマラヤ杉
蚕糸専門学校時代からの大木



旧千曲会館
同窓生が集える場として蚕糸専門学校創立25周年の記念事業で作られた



講堂 有
現在でも卒業式などが行われる
各所に繭や蚕を象徴する意匠が見られる



針塚初代校長胸像
針塚長太郎は上田蚕糸専門学校創立委員長、同校初代校長を務めた



蚕蠶供養塔
刻まれた文字は針塚初代校長の筆によるもの



桑畑
桑の品種を保存する農場として約480種の桑を栽培している

上田はかつて全国屈指の蚕糸業で栄えた「蚕都」です。上田キャンパス内とその周辺にも当時の繁栄を示す建物や史跡を見ることができます。



三吉米熊銅像
上田蚕糸専門学校設立委員や同校教授、小県蚕業学校長を務めた

笠原工業株式会社 重
旧常田製糸場施設



常田毘沙門堂
敷地内の「毘沙門堂址」の石碑は針塚初代校長の筆によるもの

上田蚕種株式会社 有
上田蚕種協業組合事務棟

上田東高等学校
小県蚕業学校跡

信州大学
上田キャンパス

●信濃国分寺

信州大学歴史探訪マップ 1873-2019

Shinshu University Historical Walking Map



資料提供・撮影協力／国土交通省天竜川上流河川事務所、長野県長野工業高等学校・同窓会、松本市教育委員会・旧制高等学校記念館、伊那市教育委員会・伊那市創造館、書肆 秋櫻舎、長野県上伊那農業高等学校(中の原農場)、北野建設㈱(旧長野県師範学校教師館)、佛導寺(姫塚)、教育学部同窓会、工学部同窓会、農学部同窓会、千曲会、小林比出代、土本俊和、蛭田直、横山俊一

国立大学法人 信州大学

監修／信州大学大学史資料センター
発行／国立大学法人信州大学

〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号
URL : <https://www.shinshu-u.ac.jp/>
Email : shinhp@shinshu-u.ac.jp

ここに取り上げた大学の歴史や建物の詳細は、こちらで聴いただけます！



信大
NOW
SHINSHU UNIVERSITY
Special Edition

信大NOW

SHINDAI NOW

CONTENTS 2019/05

03 【特集】信州大学伝統対談 VOL.7

登山家・前ファーストアサセント代表取締役

濱田学長×花谷泰広さん（教育学部卒業生）

未知を味わう
面白さ、楽しさ、怖さ。

07 信州大学歴史探訪マップ 1873-2019

信州大学の歴史ー建物に見る学部と前身校ー

09 教育研究組織の変遷

11 教育・研究・社会貢献・国際交流、 そして大学運営の特色 この10年。

15 信州大学の70年を牽引した 歴代学長の肖像

16 信州大学歌誕生

17 旧制松本高等学校から 受け継がれる「教養主義」

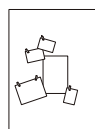
19 信大キャンパス ビフォー&アフター

21 寮のお宝大集合！

23 マンガで知る信州大学の歴史 「信州」という大学名の由来と 「信濃の国」

27 信州大学創立70周年 旧制松本高等学校100周年記念事業

●編集後記



信大NOW 第117号

◎表紙：信大に残るいくつかの赤レンガの登録有形文化財イメージ。旧制松本高等学校時代の写真、「信濃の国」の作者である渡井羽氏、そしてちょうど現地にいらした信州大学学生山岳会ヒマラヤ・セムレンヒマール登頂の写真などで大学の歴史や伝統、文化をコラージュしてみました。

2019.3.31 赤レンガ

信毎メディアガーデン(松本市)

信州大学松本キャンパス内で、ひとさき歴史を感じる建物、通称「赤レンガ倉庫」、年頃に竣工した建造物で、松本市の近代を今に伝える貴重な歴史遺産として、国部の資料室として使用されていますが、老朽化が進み本格的な補強・改修が待たれるこの大切な文化財が地域のシンボルの一つとして未永く保存維持され、さらにきるのか…。信州大学は創立70周年を迎えるのを機に、「赤レンガ倉庫」の歴史を、当日は、信州大学大学史資料センターの福島正樹特任教授が、松本歩兵第五十スへと歩みを進めるまでの過程を貴重な調査資料とともに紹介、医学部田中梁司つて医学部の研究室として使用されていた時代の話や、市民運動によって解体を「赤レンガ倉庫」は、「軍都」から「学部」へ変遷を遂げた松本市と信州大学の歴から創造的かつ実践的な事業を展開するため、本シンポジウムを起点に、「赤レン

セッションIIでは、人文学部金井直教授が、人文学部芸術コミュニケーション分野の学生たちで実施してきたアート作品の展示について報告。日本各地の同様の建築物がどのように活用されているのかにも触れ、「赤レンガ倉庫」の現状と課題を示しました。工学部土本俊和教授は、赤レンガ倉庫周辺全体を学生たちの新しい「居場所」として活用するプランを提示。詳細な調査の必要性にも言及しつつ、「市民の皆さんをはじめ、多くの人と価値観を共有した上でデザインしていく必要がある。このシンポジウムをそのきっかけにしたい」と話しました。

登壇者全員が参加したトークセッションで、信州大学濱田州博学長は「「学都」松本にキャンパスを持つ信州大学として、赤レンガ倉庫を通じた地域とのつながりをさらに作ってきたい」と話しました。

長野県立歴史館館長（信州大学名誉教授）は、赤レンガ倉庫が戦争遺跡であるだけでなく、信州大学の歴史の一部を作ってきた文化財でもあることに触れ、「それのれ人が持つ記憶を共有しながら、戦争遺跡という側面だけに注目するのではなく、未来のために広い視野を持つ必要がある」と訴えました。



福島正樹
信州大学大学史資料センター
特任教授



山田健三
信州大学
人文学部教授
(当時文学部長)

信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念プレ・シンポジウム

赤レンガでつなぐとき、まち、ひと

～旧松本歩兵第五十連隊糧秣庫の保存利活用をめぐる～

正式名称は「旧松本歩兵第五十連隊糧秣庫」。1908（明治41）の登録有形文化財に登録されています。現在、その一部は医学れる状態です。は大学と地域の共有財産として広く活用されるために、何がで振り返り、保存利活用について話し合うシンポジウムを開催し市民の皆さんと語り合う機会となりました。連隊の歴史を紐解きながら、軍用地が信州大学松本キャンパ特任教授や人文学部久保亨特任教授は、「赤レンガ倉庫」がが免れた経緯などについて解説しました。史を未来に伝える貴重な文化財です。保存と活用を両立させなが倉庫」に関するファンデレイジングも開始しています。



【プログラム】
総合モデレーター
武者忠彦（信州大学経済学部准教授）
セッションⅠ：これまでの赤レンガ
「大学史のなかの赤レンガ倉庫」
福島正樹（信州大学大学史資料センター特任教授）
「医学部と赤レンガ倉庫」
田中梁司（信州大学医学部特任教授（当時医学部長））
「市民運動史と赤レンガ倉庫」
久保 亨（信州大学人文学部特任教授）

セッションⅡ：赤レンガのこれから
「赤レンガの現在と可能性」
金井 直（信州大学人文学部教授）
「将来の活用プラン」
土本俊和（信州大学工学部教授）
将来の利活用に向けた全体討論
セッションⅠ・Ⅱの発表者
コメンテーター
赤羽都夫（松本市教育長）
菅本正治（長野県立歴史館館長）
小内翔一（信濃毎日新聞社松本本社報道部記者）
濱田州博（信州大学長）



田中梁司
信州大学
医学部特任教授
(当時医学部長)



久保 亨
信州大学
人文学部特任教授



土本俊和
信州大学
工学部教授



金井 直
信州大学人文学部教授



濱田州博
信州大学長



信濃毎日新聞社
松本本社報道部記者
小内翔一 氏



武者忠彦
信州大学
経済学部准教授



長野県立歴史館
館長 菅本正治 氏



松本市教育長
赤羽都夫 氏

旧制松本高等学校から

受け継がれる「教養主義」

旧制高等学校の教育といえば、「教養主義」である。「教養主義」とは、人文・社会・自然科学にわたる様々な学問の探究により人格形成を目指すことであり、松本高等学校でも文科・理科に関わらず、全分野を網羅した授業が行われた。例えば、第28回生(理甲2)の小林澈郎氏(東京都立大学理学部教授)は、次のように振り返っている。

授業には、理科にも倫理と人文という文科的な講義があった。倫理は関屋光彦教授が担当。最初の授業でいきなり黒板にヒルティと書いて「幸福の必要欠くべからざる条件は、倫理的世界秩序に対する硬い信仰である。(中略)」などと話した。「ヒルティとの出会いには大きな衝撃であり、また心奮い立たせる力もなった」。「春寂寥」より

授業に刺激を受け、深夜に及ぶ読書、教授たちとの交流、仲間との論戦の中で深められた思索は、文芸部の「校友会雑誌」、講演部の例会や、春秋弁論大会、寮誌「思誠」、「思誠寮報」などで発表された。その営みは戦局の悪化するなかでも滞ることはなかったという。また、山岳部は穂高岳を中心に数々の「松高ルート」を開拓。陸上部、庭球部、蹴球部などの運動部もインターハイで活躍した。

終戦後、新制大学は「人間の教養の基盤の上に、学問研究と職業人養成を一体化しようとする理念」掲げて誕生し、「専門教育」の前に「人文・社会・自然の諸科学にわたり豊かな教養と広い識見を備えた人材を養成」する「教養教育」を行うことが定められた(「学制百年史」)。信州大学では、松本高等学校を引き継いだ文理学部を始め、各キャンパスで教養課程を展開したが、昭和41(1966)年、全学部の教養教育を松本キャンパスで行うために、教養部へと発展。不断の改革を行いながら、現在は全学教育機構がその任を担っている。

松本高等学校によって涵養された「教養主義」は、信州大学の教育の礎として、現在も生き続けているのである。

旧制松本高等学校の沿革

- 大正 8年(1919) 松本高等学校設立。文科甲乙・理科甲乙計4組定員160名。
- 9年(1920) 新校舎落成。思誠寮開寮。
- 11年(1922) 第1回対寮駅伝始まる。思誠寮自治制となる。「思誠」発刊。インターハイで庭球部初勝利。
- 昭和 2年(1927) 射撃部インターハイで優勝。
- 3年(1928) 陸上部インターハイで優勝。
- 5年(1930) 第一次松高思想事件。
- 7年(1932) 第二次松高思想事件。山岳部前穂高屏風岩冬期初登攀。「思誠寮報」発刊。
- 8年(1933) 第三次松高思想事件。長野県教員赤化事件。
- 9年(1934) クラス定員30名に減員。「校友会雑誌」発刊。
- 13年(1938) 国民総動員法施行。勤務奉仕始まり、蹴球場を掘り返す。
- 14年(1939) 第四次松高思想事件。山岳部奥又白より前穂高への複数ルート冬期初登攀。
- 15年(1940) 第五次松高思想事件。校友会解散、報国団結成。自治制廃止。
- 16年(1941) 太平洋戦争。インターハイ禁止通達。山岳部台湾中央山脈遠征。
- 17年(1942) 対寮駅伝空襲警報発令で中止。22回生9月繰り上げ卒業。
- 18年(1943) 文科学学生徒出陣。野球・庭球部解散。インターハイ中止。23回生9月繰り上げ卒業。
- 19年(1944) 修業年限2年に短縮。24回生9月繰り上げ卒業。
- 20年(1945) 敗戦。授業、思誠寮再開。校長・三教授退陣と自治制要求運動。
- 21年(1946) 修業年限3年に戻す。インターハイ再開。
- 22年(1947) 学校教育法施行。旧制高等学校廃止が決定される。陸上部インターハイ2種目優勝。
- 23年(1948) 30回生入学。蹴球部最後のインターハイで準優勝。
- 24年(1949) 信州大学発足。30回生1年次修了(新制大学に進学)。
- 25年(1950) 29回生卒業。松本高等学校閉鎖。

(『われらの青春ここにありき』より)

思誠寮の北・中・南寮の姿を残した貴重な空撮写真

映像で見る信州「知の森」のあゆみ

先人の弛まぬ努力で築き上げて来た「人類の知」—信州大学においては、「知の継承(教育)」と「新しい知の創造(研究)」によって、「知の森」を育んできました。

「知の森」とは、信州の地にしっかりと根を張った国立大学の使命として、総合大学ならではの学問分野を超えた協働・融合を通して、人と地球の持続可能な社会実現のために知の体系を確立するべく、地域とともにあゆみできた信州大学の在り様を示しています。

信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業では、そのあゆみを各種映像(ムービー、スライドショー、パネル展示)で振り返ります。
※これら3つのコンテンツは、追ってウェブサイトでも公開いたします

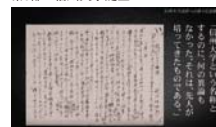
第1部 旧制高等学校と大学設置運動



第2部 旧制松本高等学校 前編・後編



第3部 信州大学誕生



contents 1 ムービー

信州大学のあゆみ

~信州の高等教育:黎明期から大学誕生まで~

150年前、文明開化・富国強兵が国の方針であった時代—「国力の発展には、初等中等教育、高等教育を根本的に整えなくてはならない」という政府の方針の下、明治5年、国民誰もが教育を受けることができる、「国民皆学」を柱とした学制改革が始まりました。

明治30年代、政府は近代文明を牽引する人材育成のため、高等教育機関の増設政策を推進。これに呼応して、「教育県」信州における、高等学校設置、大学設置運動が展開されます。

明治~大正~昭和(戦前・戦後)にかけて、長野県の教育界、政界、一般大衆に至るまで、一貫して、高等教育機関設置への情熱は途切れることはありませんでした。

幾多の困難を乗り越え、昭和24年、ついに信州大学が誕生しました。その黎明期から大学誕生までの軌跡を、当時の貴重な資料と写真を多用した、3部立てのムービーで観覧します。

contents 2 スライドショー

信州大学歴史探訪(キャンパスに刻まれた記憶) 松高人名録(その一) 思誠寮生の青春日記



信州大学歴史探訪(キャンパスに刻まれた記憶)

信州の地に期待を担って誕生した信州大学—その建物やキャンパスの景観は、前身校の時代から地域とともに歩み中で、地域のシンボルともなりました。このスライドは、大学創立70周年を迎えるに当たり、各キャンパスを丹念に取材して作成した「信州大学歴史探訪マップ」の詳細バージョンです。各キャンパスの過去と現在、そして未来につながる姿をご覧ください。

松高人名録(その一)

松本高等学校の開校100周年を記念して、旧制高等学校記念館、信州大学日本文学分野及び大学史料センターが連携し、企画展「松高人名録(その一)」を行いました。戦前・戦中・戦後を通して、さまざまな分野で活躍した松高生20名のプロフィールを取り上げ、現代日本の発展において、旧制高等学校がいかに重要な役割を果たしてきたかを振り返ります。

思誠寮生の青春日記

「旧制高等学校といえば学生寮」といって両者の結びつきは強く、全国から集まったエリートたちは、学校においては「教養主義」、寮においては「自治」の洗礼を受けながら、人間としての成長を遂げていきました。「自治こそ寮の誇りなり」「記念祭にける情熱」「戦争と思誠寮生」「信州での寮生活」の4章立てで、松高生の青春を振り返ります。

contents 3 パネル展示

信州大学今昔(いまむかし)

~信州大学の沿革と各学部の系譜~

信州大学は、戦前に設立された7つの前身校の伝統を引き継ぎ、昭和24年に発足しました。信州大学の沿革と、各学部の前身校~現在までの系譜をパネル展示します。信州大学の「昔」から「今」に至るあゆみを、ご覧ください。



松本
キャンパス



明治末～大正初期の旧陸軍歩兵第五十連隊兵営正門 *



昭和25年の信州大学開学式典の入場アーチ
正門の前にデコレーションされている。

信大キャンパス ビフォー & アフター

監修：信州大学大学史資料センター

この周年事業を機に、信州大学大学史資料センターが中心となり
キャンパスの歴史をいろいろ調査する中で、風景についていくつもの再発見がありました。
あの門は今、あの場所は今…当時の面影を残す趣の深い風景をいくつか選んでみました。

*印＝信州松本給葉書集成より



大正期の旧陸軍歩兵第五十連隊兵営航空写真
(長谷川清登氏撮影)



昭和38年頃の松本(旭)キャンパス



長野(教育)
キャンパス



現在の教育学部構内にあった旧長野県
庁の正門(明治41年以前)



その正門はその後教育学部清水ヶ丘南
校舎に移設(昭和22～31年)



清水ヶ丘から当時の講堂南側に移設
(昭和38年)



上野ヶ丘に移設(昭和44年)



その後、現在の附属長野中学校(長野市
南堀)北口通用門として移設された。

長野(工学)
キャンパス



長野工業専門学校の建物(左の建物・現
在の武道場)



曳家工事で現在地に移転した武道場

伊那
キャンパス



農学部正門(昭和43年頃)



現在の農学部正門

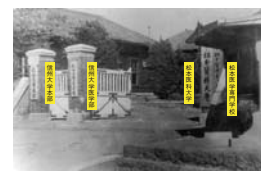
上田
キャンパス



上田畜産専門学校正門(昭和9年)



現在の繊維学部正門



昭和24年の正門 信州大学本部、医学部、松本
医科大学、松本医学専門学校の4つ銘板が並ぶ。
以前の門の面影はない。



昭和29年に作り変えられた正門
以前の門の面影はない。



以前の門柱の上部だけが、糧秣庫(通称:赤レン
ガ倉庫)に移設され現在に至る。



昭和35年の大学構内 中央の道路がメインス
トリート、正門は写真の左下にあった。



現在の医学部のけやき並木にその面影が残っ
ている。



当時のメインストリートと正門の位置を示す、現在
の信州大学前バス停の北隣りあたりになる。



旧陸軍歩兵第五十連隊の北門
左の建物は連隊厨房浴室 *



同じ位置から撮影した現在の全学教育機構 南北
に走る旧五十連隊のメインストリートの面影が残る。



五十連隊南端土手の桜並木
現在の医学部附属病院駐車場の交差点付近



同じアングルで撮影した同交差点付近
現在も桜並木となっている。



昭和初期の陸軍病院正門から南を見た写真 *



現在の西門から同じアングルで撮影



寮のお宝大集合!

信州大学は分散型のキャンパスに
ここでも伝統と文化が受け継がれ

各学部があるのが特徴。だから学部ごとに寮があり、
ています。今回は「寮のお宝」を紹介してもらいます。

1年生 全学部

こまぐさ寮

「寮章(手持ち看板)」

信州大学の学章と同じこまぐさをモチーフにした寮章。寮章があしらわれた寮伝統の法被「こまびび」や、新歓期に使用される手持ちの看板などに代々使用され、寮生活の節目に登場する。

「手持ち看板」
上級生が新入寮生を本校駅まで迎えに行く際に目印として使う看板。寮生が大学生活の最初に目にする寮章。



「こまびび」
毎年、寮生の多くが購入する法被「こまびび」。寮章の周りにみな思いの字や絵を書く。



改修前のこまぐさ寮(平成21年)



現在のこまぐさ寮

2年生以上 人文・経法・理学部

思誠寮

「提灯」

旧制松本高等学校の寮として設置された思誠寮。信州大学の寮となり、現在地に移った近年まで行われていた伝統行事の提灯行列。当時使用されていた提灯が旧制松本高等学校記念館に保存されている。



旧制松本高等学校当時の思誠寮



現在の思誠寮

2年生以上 人文・経法・理学部

思誠女子寮

「寮日誌」

1983年12月に思誠寮から独立した思誠女子寮のお宝は、1998年9月5日から始まった寮日誌。その日の掃除当番が付けるもので、内容は学生生活や時事ネタなど。約20年間欠かさずに受け継がれている。



代々引き継がれている寮日誌



現在の思誠女子寮

2年生以上 医学部

芙岳寮

「寮劇」

芙岳寮祭のメインイベントであり、寮の伝統となっているのが「寮劇」です。毎回笑い感動を追及していく中で、新寮生を中心に、寮生一同絆を深めることができているようです。やはり医学部だけあって白衣の衣装が見られます。



医師、患者役のキャストिंग
(1994年の寮祭より)



昭和43年竣工



平成29年に
全面改装された。

2年生以上 教育学部

妻科寮

「鏡(昭和6年卒業生寄贈)」

教育学部の前身校の一つ、長野県師範学校の寮として設置された妻科寮。当時の卒業生が寄贈した鏡。その後、昭和48年建物建て替え、改修を経たのちも、現在の寮の食堂で、寮生を映し続けている。



生業学度年六和昭



現在の妻科寮



昭和50年卒業生が寄贈した寮鏡

2年生以上 工学部

若里寮

寮歌「青春讃歌」の
オルゴール

若里寮は、終戦直前の昭和20年、前身校の長野工業専門学校時代に建設された。その後老朽化により昭和54年に新築され今に至る。寮歌は「青春讃歌」。工学部創立60周年を機に記念に作られたオルゴールが残る。



若里寮1期生
(当時の若里寮前で、昭和24年頃の撮影)



現在の若里寮

2年生以上 農学部

中原寮

寮旗と
日本中部縦断駅伝

およそ40年前から3年毎に開催されている寮の伝統行事の駅伝。新潟県の日本海から静岡県の太平洋まで、数日かけて寮旗をたすきとしてつなぐ。この挑戦を経て、寮生の絆がより強くなる。



寮祭ではためく寮旗



現在の中原寮

2年生以上 繊維学部

修己寮

「寮祭団長衣装」

運動会や大学祭で学科ごとに競い合った「団長の舞」は、「団長踊り」「パッパ」とも呼ばれ戦後も上田の町の名物だった。京都の職人によって修復され、今はその伝統を修己寮の寮生が受け継いでいる。



正門から街頭に繰り出す修己寮の神輿



現在の修己寮

マンガで知る信州大学の歴史
**「信州」という
 大学名の由来と
 『信濃の国』**

2019年、信州大学は創立70周年。
 旧制松本高等学校は100周年を迎えた。
 これを機に、その辺をじっくり考えてみる
 特別企画です！
 協力：信州大学大学史資料センター

ねえねえ！
 何悩んでるのー!?

地方の国立大学って
 だいたい県名がついてるよね。
 どうしてウチの大学は
 「信州」大学なんだろう？

新制の国立大学は、
 基本的に都道府県名を
 付けることとされた。

解説：ちなみに「琉球」大学は、「琉球
 王国」に由来しているので、信大とは
 命名の背景がちよっと違う

日本で、昔から用いられていた
 「旧国名」の大学って聞いたよ！
 国立大学で
 唯一なんだって！

旧国名？

旧国名は正式には「信濃国（しなのくに）」って言ったそうよ。「信州」
 はその略称だって。

でも長野県はそれぞれの
 地域で、伝統や文化も相当
 違ったらしくて、まとまるのに
 大変だったって話を聞いたこ
 とがあるわ。『信濃の国』とい
 う県歌も何かそのことに
 関係しているんだって。

信州大学の名前の由来と『信
 濃の国』か…誰か詳しく教えてく
 れないかな？

君！

聞こえたよ！そこには長野県の歴史上、
**壮大なドラマが
 あるのだ！**

図書館 命

渡邊附属図書館長・大学史資料センター長

まず現在の「長野県」になるまでの変遷
 を把握しよう。「明治維新」後、「信濃国」内
 の旧幕府領が「伊那県」、「中野県」となり、
 明治4(1871)年7月の廃藩置県をうけて、
 各藩が県となった結果、「信濃国」内には、
 14の県が存在することになった。
 同年11月、各県は長野県と筑摩県に統
 合され、さらに明治9年に「長野県」になっ
 ったんだ。その間、なんと、今の岐阜県の飛
 騨地方が筑摩県に含まれていた時期も
 あったんだよ。

そこで登場するの
 が『信濃の国』なのだ。

教育学部の前身校、
 長野県師範学校 浅井利先生

ご存知のとおり、県内の主要都市に、長野市と松本市がある
 よね。ひとつの県名にするとすると、「旧長野県」派と「筑摩県」
 派の主張は当然かみ合わない。…統合はされたけど、「県庁
 が長野市では北すぎる」とか、「やっぱり県を分けよう」という
 運動(移行論・分県論)も起き、県民感情としては南北の対立が
 激しくなっていたんだ。

ケンカは
 やめたぞ！

移行・分県

…県民の対立を憂いて、とも言われるが、「信
 濃の国は十州に」…の名歌『信濃の国』は、明治
 32(1899)年に発表された。信州大学教育学部の
 前身、長野県師範学校の浅井利先生が作詞し、
 校歌にもなっている歌だって、知ってたかい？…

歌詞には長野県各地の山河や県に縁の人物な
 どが多く登場し、長野県という地域をひとつに歌
 い上げている。…だからこの歌は、県外からは「連
 邦」と揶揄され、ばらばらだった長野県の一体性
 を高め、県民の精神的な支えになっていたとも言
 われている。

「分県」が県議会で、すわ採択か! ?となった
 際に、議場を埋め尽くした県民の大合唱が起き
 た、との逸話もあるらしい…つまり、

**『信濃の国』は
 長野県民の心を
 ひとつにしたのだあぁ！**

大正6年に書かれた浅井利自筆の書
 『信濃国』(教育学部所蔵)



「タコ足大学」とも言われる由来 7つの前身校と8学部・5キャンパスの関係



「2020（平成 32）年度以降の学芸員養成課程の存続について（提案書）」

公開版からは割愛しています

ページ数：p.52～57

2017 年度、2018 年度戦略的経費実施報告書、
2019 年度戦略的経費実施計画書

公開版からは割愛しています

ページ数：p.58～64

信州大学大学史資料センター 中・長期計画（案）

	中期目標・中期計画			第3期(平成28年度～令和3年度)						第4期(令和4年度～令和9年度)						第5期(令和10年度～令和15年度)					
				2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度
	機 能	資料群	事 例	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度／令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度
					記念事業			100年史に向けての80年史準備										100年史に向けての90年史準備			
資料の収集・整理・保存	機関アーカイブズ	行政文書（大学本部）	法人文書	検討期間	原則として対象としない	原則として対象としない	原則として対象としない	公文書の機能を有する必要がある場合に改めて検討する								→	→	→	→	→	→
		広報資料	刊行物等		一部収集している			網羅的な収集に向けた方針検討	方針に基づき収集する	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
		教育・研究成果／学部資料	教材、研究論文、各種報告書等		研究論文等については機関リポジトリ（SOAR-IRで収集・公開を行っている）			さらなる検討・準備	方針に基づき収集する	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→		
	収集アーカイブズ	卒業生資料	卒業証書、ノート、大学祭パンフ、写真、映像、音声等	準備期間	収集開始	収集	収集・総括	収集・整理・公開	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
		教職員資料	学長、教職員が保有する資料		収集開始	収集	収集・総括	収集・整理・公開	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
		関係機関等資料	旧制高等学校記念館、長野県立歴史館ほか		収集開始	収集	収集・総括	収集・整理・公開	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
		歴史的資料	30年程度を経過した大学行政文書等		検討、収集開始	収集	収集・総括	収集・整理・公開	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
調査研究	調査研究	大学史に関する調査研究			周年記念事業のコンテンツに関わる調査研究			企画展示、100年史編纂に関わる調査研究				→	→	→	→	→	→	→	→	→	
公開・展示	企画展示	年度初めの展示及び秋の企画展	第1回前期	第1回後期	第2回前期	第2回後期	第3回	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	デジタルアーカイブズ	収集資料のデジタル化公開			準備	準備	周年事業関係コンテンツをWebサイトで公開	JAIRO-Cloudによる公開準備	JAIRO-Cloudによる公開	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
年史	年史編纂	整理したデータの公開・年史シナリオ(章立)案と年表稿作成			—	—	—	編纂方針・体制の検討	方針に基づき事業実施	→	→	→	→	→	→	→	80年史	→	→	→	→
自校史	自校史教育	活動成果の教育への活用			企画展示の授業等での活用			より組織的な方策で実施		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
連携	連携活動	各部局・地域			単発の連携			あり方検討	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
学芸員	学芸員養成課程	養成課程への協力			センター教員が授業を担当			あり方検討	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
各学部の周年	大学	1949年					70周年					75周年					80周年				
	松高	1919年					100周年					105周年					110周年				
	文理学部	1949年					70周年					75周年					80周年				
	人文学部	1966年	50周年						55周年					60周年					65周年		
	教育学部(師範)	1873年				145周年					150周年					155周年					160周年
	経法学部	1978年				40周年					45周年					50周年					60周年
	理学部	1966年	50周年						55周年					60周年					65周年		
	医学部(医専)	1944年					75周年					80周年					85周年				
	工学部	1949年					70周年					75周年					80周年				
	農学部(農専)	1945年						75周年					80周年					85周年			
繊維学部(蚕糸)	1910年						110周年					115周年					120周年				

2019/11/01 大学史資料センター

国立大学における大学史に関わる組織の実態調査 結果まとめ

1. 大学史に関わる他大学調査の概要

信州大学大学史資料センターの組織のあり方について検討するにあたり、他大学の同様の組織について次のとおり調査を実施した。

- 調査対象：国立大学図書館協会（JANUL）加盟館（92 館）
- 実施期間：2019 年 9 月 6 日（金）～2019 年 9 月 27 日（金）
- 回答数：54 件（53 大学）

2. 回答の概要

◆ 大学の歴史を扱う組織の有無について

大学史を扱う組織がある	21
大学史を扱う組織がない	33

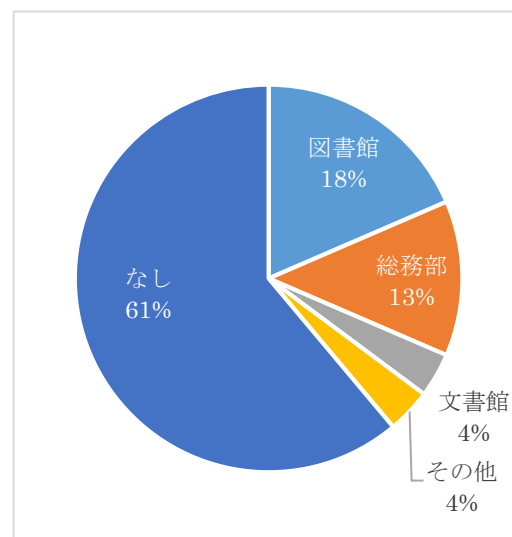
◆ 「ある」回答のうち、事務担当部署別内訳

図書館	10
総務部	7
文書館	2
その他*	2

*その他内訳：研究推進部、単独の学部

◆ 「ある」という回答の運営体制

当該組織独自の委員会がある	16
事務担当部署が運営している	3
その他・未回答	2

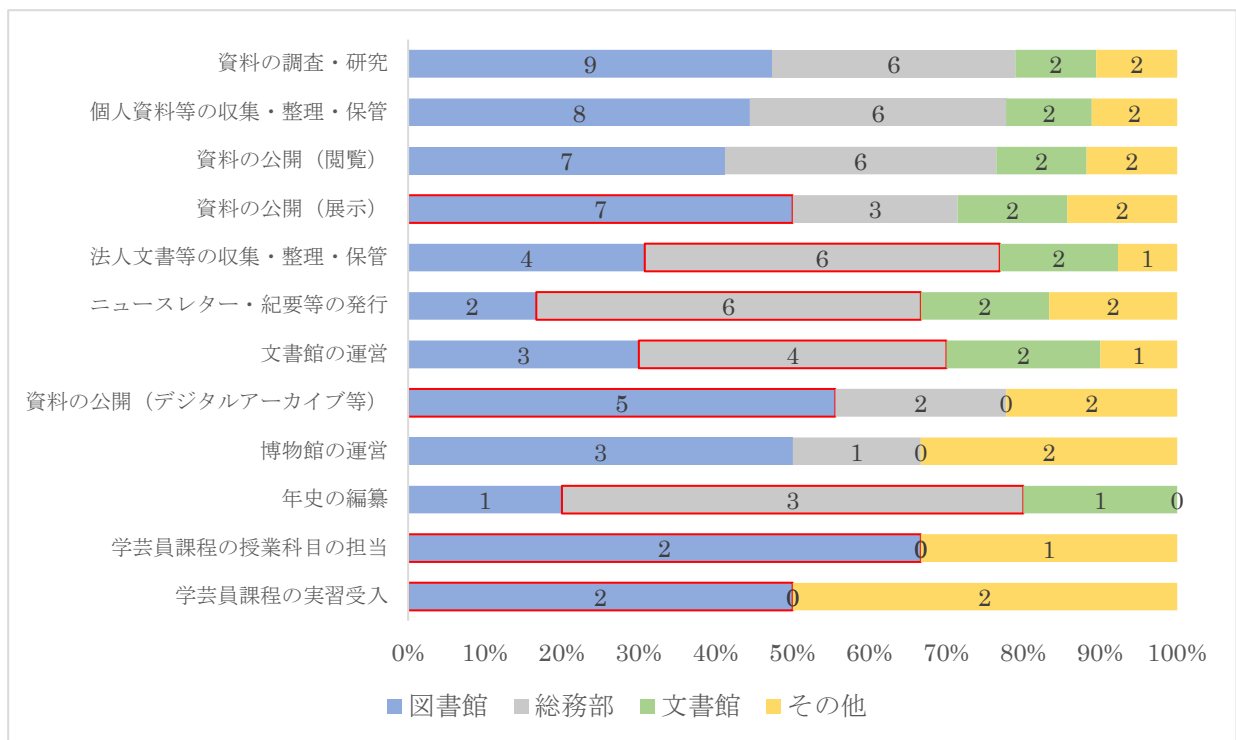


- 回答全体のうち、大学の歴史を担う組織が「ある」と回答した大学が 21（39%）、「ない」と回答した大学が 33（61%）となった。
- 「ある」回答のうち、事務を担当する部署については、図書館 10（47%）、総務部 7（33%）、文書館 2（10%）、その他 2（10%）の順で、図書館が最も多い。
- 組織の運営体制については、「当該組織単独の委員会がある」との回答が 16 件（76%）あり、多くの組織において単独の委員会が運営を行っている

◆ 事務担当部署別にみた実施業務の傾向

業務の内容	実施している					実施していない
	図書館	総務部	文書館	その他	計	
資料の調査・研究	9	6	2	2	19	2
個人資料の収集・整理・保管	8	6	2	2	18	3
資料の公開（閲覧）	7	6	2	2	17	4
資料の公開（展示）	7	3	2	2	14	7
法人文書等の収集・整理・保管	4	6	2	1	13	8
ニューレター・紀要等の発行	2	6	2	2	12	9
文書館の運営（うち、公文書館指定有）	3(2)	4(4)	2(2)	1(0)	10(8)	11(2)
資料の公開（デジタルアーカイブ等）	5	2	0	2	9	12
博物館の運営（うち、博物館指定有）	3(2)	1(1)	0	2(2)	9(6)	15
年史の編纂	1	3	1	0	5	16
学芸員課程科目の担当	2	0	0	1	3	18
学芸員課程の実習受入	2	0	0	2	4	16

（上から実施している件数が多い順）



- 資料の調査・研究、個人資料等の収集・整理・保管、資料の公開（閲覧）については、事務担当部署による特徴は見られず、多くの組織が実施していた。資料の公開（デジタルアーカイブ・展示）、学芸員課程の授業科目の担当、実習の受入は、図書館が事務担当の組織が実施している割合が高い。一方、年史の編纂、文書館の運営、法人文書の収集・整理・保管、ニューレター・紀要等の発行等は、総務部が事務担当の組織が実施している割合が高い。

大学史資料センター検討部会 名簿・検討部会開催記録

(1) 名簿 (2019 年 8 月 1 日現在)

☆	渡邊 匡一	副学長 (学術情報担当)・附属図書館長
	平野 吉直	理事 (教務担当)
	金井 直	人文学部教授
	東城 幸治	理学部教授
	志村 佳名子	教育学部助教
	森 いづみ	附属図書館管理課長
	山口 美咲	教育学部図書館係員
△	小島 浩子	附属図書館管理・企画事業グループ主査

(☆は部会長、△は事務局)

(2) 開催記録

- 大学史資料センター検討部会 (第 1 回)
 2019 年 8 月 19 日 (月) 15:30~17:00
 (議題)
 - ・ 大学史資料センター検討部会の設置について
 - ・ 大学史資料センターの現状ならびに 2017 年~2019 年の活動総括について
 - ・ 2020 年以降の展開と組織のあり方について
- 大学史資料センター検討部会 (第 2 回)
 2019 年 10 月 25 日 (金) 9:00~10:30
 (議題)
 - ・ 大学史に関する他大学組織の調査結果、ならびに本学の組織のあり方について
 - ・ 2020 年以降の事業計画について
- 大学史資料センター検討部会 (第 3 回) メール審議
 2019 年 11 月 1 日 (金) ~8 日 (金)
 (議題)
 - ・ 大学史資料センター検討部会報告書 (案) について

以上